

# 多古町成田国際空港東側地域戦略構想

(改訂)



平成 30 年 3 月

多古町

# 目 次

第1章 本構想について	1
1. 策定のねらい	1
2. 位置づけ	2
3. 検討対象範囲	3
4. 計画期間	3
5. 戦略構想の進捗について	4
6. 空港東側地域をとりまく環境変化と同地域の強み・弱み	5
7. 空港東側地域の課題の整理	6
(1) 成田空港関連の拠点が少ない	6
(2) 空港へのアクセス利便性に乏しい	6
(3) 地域産業の低迷	7
(4) 観光面の魅力に乏しい	7
(5) 人口減少に伴う地域活力の低下	7
(6) 多古町の魅力が町内外に伝わっていない	8
第2章 基本方針	9
1. 戦略プラン	9
2. 基本方針	10
第3章 分野別戦略プラン	12
1. 拠点形成	15
(1) 空港関連施設等の誘致	15
(2) 空港東側エントランスの整備	15
(3) 総合高速バスターミナルの整備	15
(4) 空港眺望公園・サービスエリア等の整備	18
(5) 圏央道インターチェンジ周辺の利活用の促進	18
(6) 五辻地区における新たな土地利用の推進	19
2. 圏央道と成田空港のアクセス強化	20
(1) 県道成田松尾線の圏央道東側への延伸	20
(2) 国道296号の4車線化と既存県道の機能強化	20
(3) 町道染井・間倉線の4車線化・県道昇格	20
(4) 圏央道の側道整備、機能補償道路・付替え道路の整備	20
(5) 公共交通網の充実、新交通システムの導入	20
(6) 町道の整備・機能強化	21
3. 産業振興	22
(1) 企業誘致の推進	22
(2) 農業の6次産業化の推進と農業基盤の整備	27
(3) 環境に配慮したまちづくり（スマートシティの構築）	31
4. 観光振興、集客・交流促進	32
(1) 広域観光ルートの創出	32
(2) 観光振興の推進	33
(3) 集客・交流拠点の整備	35
(4) 観光振興体制の整備	35
5. 移住・定住促進	38
(1) 新たな空港用地・騒音区域からの移転促進	38
(2) 新たな住宅地の整備	38
(3) 住宅情報の整備（空き家バンク等）	39
(4) 移住・二地域居住の促進	39

第4章 構想の実現に向けて	40
1. 本構想を実現するための視点	40
(1) 圏央道の全通と成田空港東側エントランスの早期整備	40
(2) 広域かつ多様なネットワークづくり	40
(3) 地域ブランド力の向上及び情報発信力の強化	41
(4) 地域を支える人材育成「多古の子 町の子 みんなの子」	41
(5) 自然との共生	41
2. 推進体制	42
(1) 関係主体の役割	42

# 第1章 本構想について

## 1. 策定のねらい

成田国際空港（以下、成田空港という）をとりまく環境変化をみると、2014年度末に航空機年間発着容量 30 万回が合意されました。2015 年度には、LCC<sup>\*注1</sup>各社の新規就航に対応する第3旅客ターミナルがオープンするなど、国内外の航空機需要を受けとめるための機能強化が図られています。

さらに、2016年9月の「成田空港に関する四者協議会」においては、年間発着容量 50 万回を前提とした第三滑走路の整備をはじめとする成田空港の拡張の提案があり、更なる機能強化に向けた取り組みが提案されました。このことは、今後、多古町への新たな人口増加や産業誘致等の波及効果が期待される一方で、町内に新たな騒音区域が発生することから、その環境対策並びに地域振興策を確実に実施することが必要な状況となっています。

また、成田空港の東側には、首都圏中央連絡自動車道（以下、圏央道という）の整備が計画されており、成田空港周辺地域は、これまでの東関東自動車道などによる都心とのネットワークに加えて、羽田空港方面や北関東方面など都心を中心として環状方向に新たなネットワークが生まれ、利便性がさらに高まることが期待できます。圏央道については、国土交通省関東地方整備局の2017年度の事業計画に、整備に向けた具体的な取り組みが盛り込まれました。

一方、羽田空港の再国際化（2010年10月）やオープンスカイの進展に伴う地方空港からの海外直行便の増加、国際的なハブ空港争いなどに加え、本格的な人口減少社会の到来など、成田空港をとりまく環境は厳しさを増しています。こうしたなかで、成田空港が航空旅客数をさらに増やしていくためには、平成28年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン」に示された訪日外国人4,000万人を目標とした取り組みや、今後予定される2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした、新たな航空需要を取り込むことに加え、空港周辺地域がさらに魅力を高めて、航空旅客に最終目的地として選ばれるようになることが必要不可欠です。

これらの状況を十分にふまえ、空港東側地域の新たな飛躍拠点として多古町を位置づける地域戦略を策定し、これまで空港周辺地域のなかではインフラ整備などが進まなかった空港東側地域に成田空港の経済波及効果を拡大するとともに、魅力ある国際空港都市の実現を図ることが本構想の目的です。

本改訂版は、近年の空港機能強化の動向や、東京オリンピック等の今後の見通しの変化をふまえ、内容の一部改訂を行ったものです。

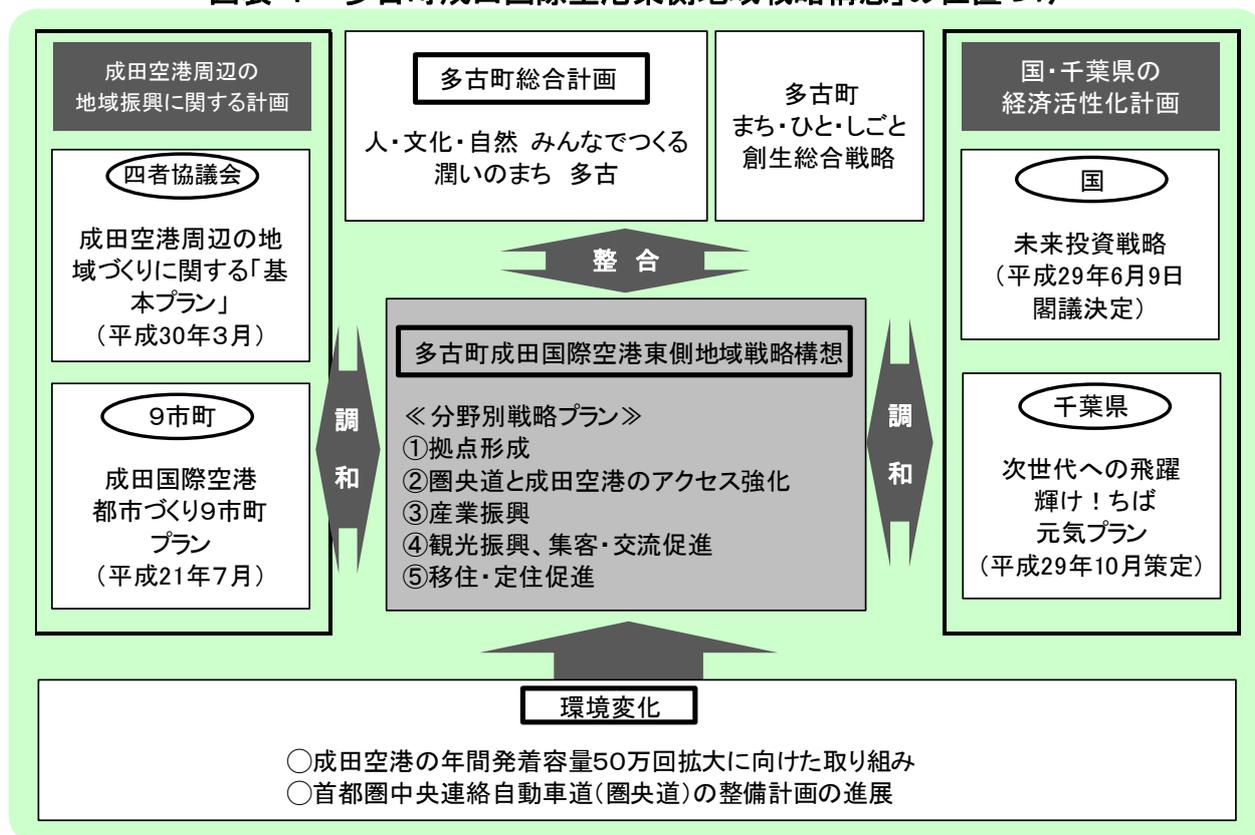
(注1) 格安航空会社(LCCはLow Cost Carrierの略称)。経営や航空機運用の効率化によって低い運航コストを実現し、低価格かつサービスが簡素化された航空輸送サービスを提供する航空会社のことを指す。

## 2. 位置づけ

本構想は、上位計画である多古町総合計画や国・千葉県のビジョンなどとの整合性に配慮しつつ、成田空港のポテンシャルと圏央道の整備を見ずえた空港東側地域の活性化戦略として、今後の多古町の地域づくりの方向性を示すものです（図表1）。

なお、本構想における「成田国際空港東側地域」とは、主に多古町のことを指しています。

図表 1 「多古町成田国際空港東側地域戦略構想」の位置づけ



### 3. 検討対象範囲

成田空港東側における圏央道周辺が重点的に検討する地域です。

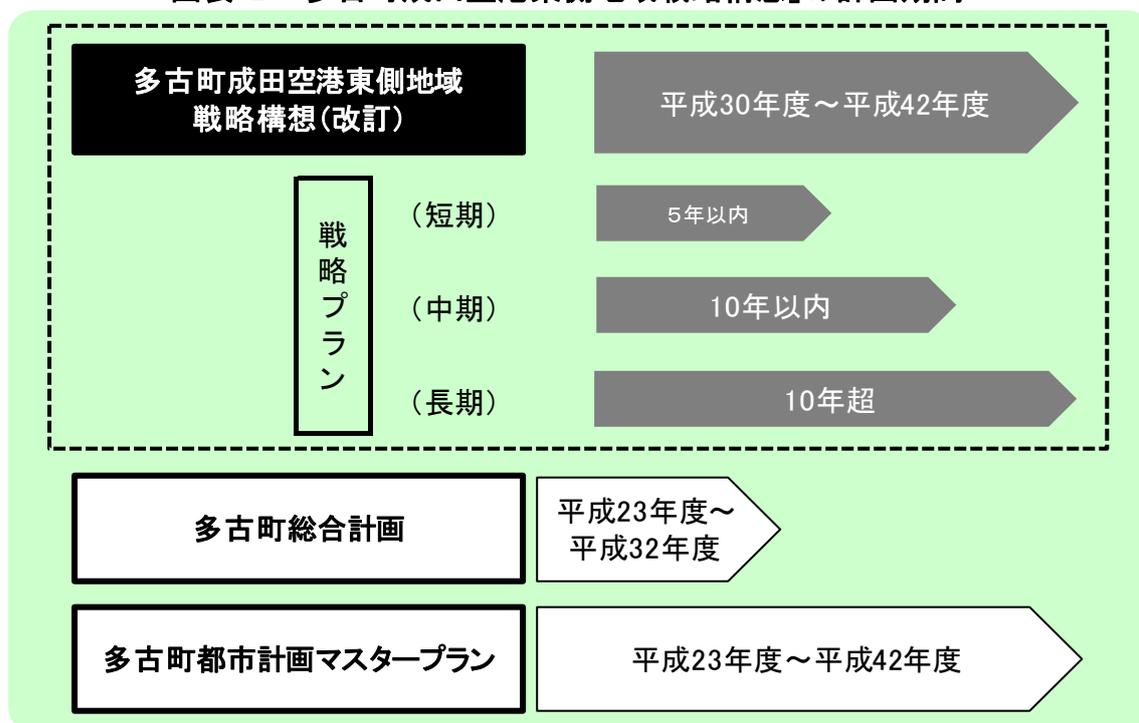
また、産業振興や観光振興、集客・交流促進、移住・定住促進については、町全域及び必要に応じて広域圏の連携も検討します。

### 4. 計画期間

上位計画である多古町総合計画の計画期間は10年（平成23年度～平成32年度）ですが、圏央道の開通時期が2024年（平成36年）の見込みであり、本構想の実現に向けた取り組みがテーマによっては長期間を要するものもあることから、平成24年3月に策定した多古町都市計画マスタープランの計画期間である平成42年を見通した構想とします（図表2）。

なお、本構想の実現に向けて推進すべき戦略プランは、その内容によって、短期（5年以内）、中期（10年以内）、長期（10年超）に分けて考えます。

図表2 「多古町成田空港東側地域戦略構想」の計画期間



## 5. 戦略構想の進捗について

「多古町成田国際空港東側地域戦略構想」は、平成 24 年度に学識経験者、国、県、成田国際空港㈱（N A A）、民間企業等で構成される「多古町成田空港東側地域戦略会議」からの意見をふまえながら平成 25 年 3 月に策定されました。

構想策定以降、構想に基づき、下表のような取り組みを進めています。今回の改訂は、近年の成田空港の発着容量拡大や圏央道整備の具体化等をふまえ、構想内容の一部を見直すものです。

項目	構想内容（策定当初）	主な取り組み
拠点形成	(1)空港施設の誘致 (2)空港東側ゲートの整備 (3)総合高速バスターミナルの整備 (4)空港眺望公園の整備 (5)圏央道インターチェンジ周辺の利活用の促進	—
圏央道と成田空港のアクセス強化	(1)県道成田松尾線の延伸 (2)国道 296 号の 4 車線化 (3)町道染井・間倉線整備 (4)圏央道の側道整備 (5)一 鍬田地先町道多古 1004 号線の整備	○町道染井・間倉線について、間倉バス停～間倉集落入口間 260m について事業着手され、道路拡幅バスベイが設けられた。
産業振興	(1)企業誘致の促進 (2)農業の 6 次産業化の推進 (3)環境に配慮したまちづくり	○多古町企業誘致条例を全町的かつ中規模企業にも適用できるよう改正し、誘致活動を推進している。 ○企業設備投資に関する情報を金融機関から得て、積極的にアプローチしている。 ○多古町農畜産物ブランド推進事業を創設し、商品開発等に対し補助を出している。また、プレス等を活用して多古町の魅力を発信している。 ○上記事業にて開発された「多古町で作ったさつまいものプリン」が「ふるさと名品オブザイヤー」（内閣府後援）の”自治体が勧める地域の逸品（まちな逸品）”部門の優秀賞に入賞した。
観光振興 集客・交流促進	(1)広域観光ルートの創出 (2)ニュー・ツーリズムの推進 (3)集客・交流拠点の整備	○広域観光ルートの創出に向け、J A F と包括協定を締結した。また、県とも連携し、圏央道開通に伴う北関東方面からの誘客活動を検討している。 ○成田空港のトランジット旅客のツアーが開始された。成田空港周辺市町で散策ルートを開発し、レンタサイクルを提供しており、多古町への利用もみられている。 ○豊饒のさと多古ふれあい事業において、田植え稲刈り体験を実施しており、また、N P O 都市と農村の交流協会では、農産物収穫体験を実施している。また、旬の味や地区等においても独自に農業体験を行っている。
定住促進	(1)多古台の住宅整備 (2)住宅情報の整備 (3)二地域居住の促進	○多古台については、第 I 期開発（住宅地 83 区画）、第 II 期開発（住宅地 45 区画）、第 III 期開発（24 区画）が分譲され、完売した。 ○平成 26 年 4 月にはこども園の開設による保育サービスの充実、平成 27 年 6 月にはバスターミナル開設による交通利便性向上、平成 27 年 10 月にはスーパーマーケット及びドラッグストアがそれぞれオープンし、生活環境の充実が図られた。

## 6. 空港東側地域をとりまく環境変化と同地域の強み・弱み

成田空港周辺地域の強み、弱み、同地域をとりまく機会と脅威を図表3にまとめました。

空港東側地域が今後飛躍的に発展するためには、2024年の圏央道インターチェンジの整備や成田空港の発着容量拡大、さらには2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機とした航空旅客の増加などの機会を取り込むために、多古台エリアの良好な住環境形成の更なる推進及び農業特産品やおいしい水資源を活用した食料品製造業の集積などの強みをさらに伸ばすとともに、人口減少や公共交通機関が脆弱であること、雇用の場が減少していることなど地域が抱える課題を克服していかなければなりません。その方向性を明らかにすることが本構想の大きな目的です。

図表3 多古町の外部・内部環境分析(SWOT分析)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆多古台(移住・定住促進の源泉)</li> <li>◆農業が盛ん(多古米、やまと芋、養豚、養鶏、酪農等)</li> <li>◆おいしい水(上水道の原水は全て地下水<sup>注1</sup>)</li> <li>◆食料品製造業の集積</li> <li>◆流通関連企業(物流・倉庫・卸売業)の集積</li> <li>◆多古高校による人材供給</li> <li>◆日本寺(中村壇林)等の歴史(人材育成に熱心な土地柄)</li> <li>◆地盤が強固で災害に強い<sup>注2</sup></li> <li>◆美しい里山の風景</li> <li>◆千葉県フィルムコミッションとの連携(昭和の農村風景)</li> <li>◆栗山川<sup>注3</sup>の景観(あじさい遊歩道など)</li> <li>◆道の駅多古を起点とした歴史散策コース</li> <li>◆多彩なイベント(あじさい祭り、祇園祭など)</li> <li>◆ゴルフ教育に熱心</li> <li>◆医療施設(国保多古中央病院)があること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人口減少(働き手の減少)</li> <li>◆公共交通機関が脆弱(電車がいない)</li> <li>◆雇用の場が減っている</li> <li>◆付加価値の高い製造業が少ない(機械・医薬品など)</li> <li>◆賑わい拠点(観光施設)が少ない</li> <li>◆中心市街地に魅力がない</li> </ul>
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2024年の圏央道の整備</li> <li>◆成田空港の航空機年間発着容量50万回拡大に向けた取り組み</li> <li>◆2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催</li> <li>◆訪日外国人4000万人達成を目標とした取り組み</li> <li>◆LCCの新規就航</li> <li>◆企業の農業参入意欲の高まり<sup>注4</sup></li> <li>◆農業の人材育成機関設立機運の高まり<sup>注5</sup></li> <li>◆グリーン・ツーリズム需要の拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆圏央道の整備の遅れ(茨城県・埼玉県等に需要がシフト)</li> </ul>

注1 熊本市は日本一の地下水都市(上水道は100%地下水を利用)を標榜し、2008年度の第10回日本水大賞グランプリを受賞。

注2 東日本大震災(多古町は震度5強を観測)における被害は、全壊家屋2棟、半壊家屋5棟。

注3 千葉県内のみを流れる川としては第2位の流域面積を持つ二級水系。太平洋側のサケの回帰の南限の川。

注4 輸入卸の榊ワールドアグリ(趙社長)が成田市内の農場(約2ha)でブルーベリーの生産を2011年から開始した。

注5 ニチレイやイオンなど200社が連携し「日本農業経営大学校」を2013年4月に設立する。

## 7. 空港東側地域の課題の整理

成田空港東側地域の現状及び同地域をとりまく環境変化（機会・脅威）や強み・弱みをふまえて、同地域が抱える課題を整理しました。

### (1) 成田空港関連の拠点が少ない

- 成田空港に関連した拠点の集積としては、ホテルや駐車場などの航空旅客向けの拠点は空港の北側地域に集中し、物流拠点（倉庫・保税蔵置場など）は、空港の北側地域に加えて、空港南側地域（空港南部工業団地など）にも立地しています。また、成田空港のなかで働く従業者数の構成比（2014年11月現在）をみると、空港周辺9市町のなかでは、成田市が36.4%と最も多く、富里市が6.6%で続くなど（多古町：1.4%）、ベッドタウンとしての機能も主に空港の北側・西側地域が担っています。
- 一方、空港東側地域は、公共交通機関の利便性に乏しいことや、成田空港のエントランス\*<sup>注1</sup>が北側（第1・2ゲート）及び南側（第6ゲート）にあることなどから、成田空港が至近にあるという利点を活かせるような拠点がほとんど整備されていません。
- 圏央道の整備により空港東側地域のアクセス利便性が向上すること及び第3滑走路は、成田空港関連の拠点を空港東側地域へ誘致する大きなチャンスであり、同地域において成田空港の経済波及効果を最大化するために欠かせない取り組みです。

### (2) 空港へのアクセス利便性に乏しい

- 空港東側地域の道路網をみると、南北方向の道路は、佐原多古線や多古栗源線などがあり、多古町から北は香取市・茨城県等、南は海匝地域等を結んでいます。一方、東西方向の道路は、成田小見川鹿島港線や国道296号があるものの、①成田小見川鹿島港線は多古町域の北端に位置していることや、②国道296号が片側1車線であること、③南北方向の道路間のアクセスが悪いことなど、アクセス利便性に乏しいのが現状です。
- 今後、整備の進展が見込まれる圏央道においては、空港東側地域（多古町の西端）を南北に縦断し、新たなインターチェンジが設置されることから、公共交通の利便性に乏しかった空港東側地域へのアクセス利便性が飛躍的に高まります。さらに、空港東側地域への企業誘致などを推進するためには、圏央道インターチェンジを起点として空港と空港東側地域を結ぶ道路網を早期に整備することが求められます。

（注1）エントランスとは、空港への入口のこと。平成24年に策定された戦略構想では、「ゲート」と呼ばれていた。

### (3) 地域産業の低迷

- 多古町の事業所数は、2001年から2014年にかけて約1割（107事業所）減少しており、工業も、多古工業団地の分譲（1985～1989年度）後に製造品出荷額等が大きく伸びましたが、2005年度以降は、横ばいで推移しています。また、県内でも有数の農業が盛んな町ですが、農業従事者の高齢化、後継者不足は深刻な問題となっています。
- こうした多古町の産業の衰退に歯止めをかけることは、町民の働く場の確保という移住・定住の促進や人口対策にもつながる重要なテーマでもあるだけに、中長期的な視点で戦略的に取り組む必要があります。

### (4) 観光面の魅力に乏しい

- 多古町の2015年の観光入込客数をみると、観光施設では「道の駅多古あじさい館」、イベントでは「ふるさと多古町あじさい祭り」がトップとなっていますが、その他は小規模かつ認知度が低いものがほとんどです。また、空港周辺9市町の観光インフラをみても、成田山新勝寺や香取神宮など一部の施設を除き、単体では競争力の乏しいものが多くみられます。成田空港を利用する航空旅客を空港周辺地域さらには千葉県全域に回遊させるためには、空港周辺9市町などの地域、さらには千葉県全域や茨城県なども含めて広域的に連携し、その相乗効果で地域間競争に勝ち抜くことが必要です。
- 2017年4月ではジェイアールバス関東株式会社における、成田山新勝寺や「道の駅多古」等の観光資源を回遊する「ウェルカム成田セレクトバスツアー」等の取り組みが始まりましたが、多くの取り組みには至っていません。これを実現できるような広域連携の実現が、空港東側地域の観光振興の鍵を握っています。

### (5) 人口減少に伴う地域活力の低下

- 国勢調査によると、多古町の人口は、1995年の18,201人から2015年には14,724人（1995年比▲19.1%）に減少しました。さらに、少子高齢化が進行している現在の町民の年齢構成からみて、今後も多古町の人口は緩やかに減少していくことが見込まれています。
- 人口減少は、地域の需要（購買力）を直接的に下押しする要因となるだけに、地域の活力が徐々に落ち込んでいくことが懸念されます。
- よって、多古町の人口増加を図っていくことは、地域の活力を維持していくために欠かせない重要かつ喫緊のテーマであり、若い世代の転入を促すための住宅団地の整備や暮らしやすいまちづくりが求められています。

## (6) 多古町の魅力が町内外に伝わっていない

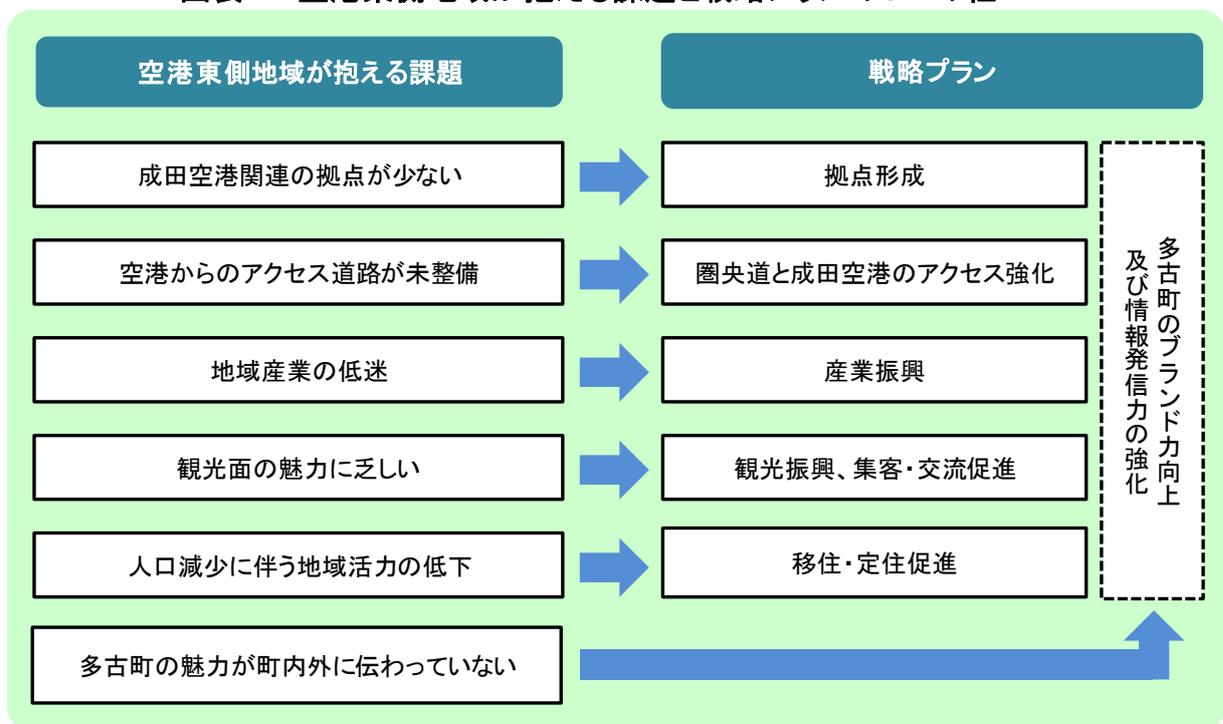
- 企業誘致や観光などのあらゆる分野において、国内外の地域間競争が激しくなっています。特に平成 26 年の「まち・ひと・しごと創生法」の施行以降、各自治体において、人口減少を緩やかにするためのさまざまな取り組みが進められており、シティセールスに積極的に取り組む自治体が増えています。
- 多古町には多古米や大和芋等の農産物や日本寺等の歴史、美しい里山の風景、豊富な地下水などさまざまな地域資源があり、「多古町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、町の PR 強化やシャトルバス増便による移住・定住促進の情報発信等の取り組みを行っていますが、多古町の魅力が町内外に十分に伝わっているとは言えません。
- 成田空港の年間発着容量 50 万回の拡大及び圏央道整備の経済効果を空港東側地域に取り込むためには、多古町が持っているさまざまな魅力を戦略的に発信して、まちのイメージや知名度（ブランド力）をより一層高める必要があります。

## 第2章 基本方針

### 1. 戦略プラン

成田空港東側地域の現状及び同地域をとりまく環境変化（機会・脅威）や強み・弱みをふまえ、同地域が抱える課題を解決するための戦略プランとして、「拠点形成」や「圏央道と成田空港のアクセス強化」、「産業振興」、「観光振興、集客・交流促進」、「移住・定住促進」の5つの柱を立てました（空港東側地域が抱える課題と戦略プランの5つの柱の相関は図表4の通り）。また、多古町の魅力を内外に伝えるために「多古町のブランド力向上及び情報発信力の強化」も求められます

図表 4 空港東側地域が抱える課題と戦略プランの5つの柱

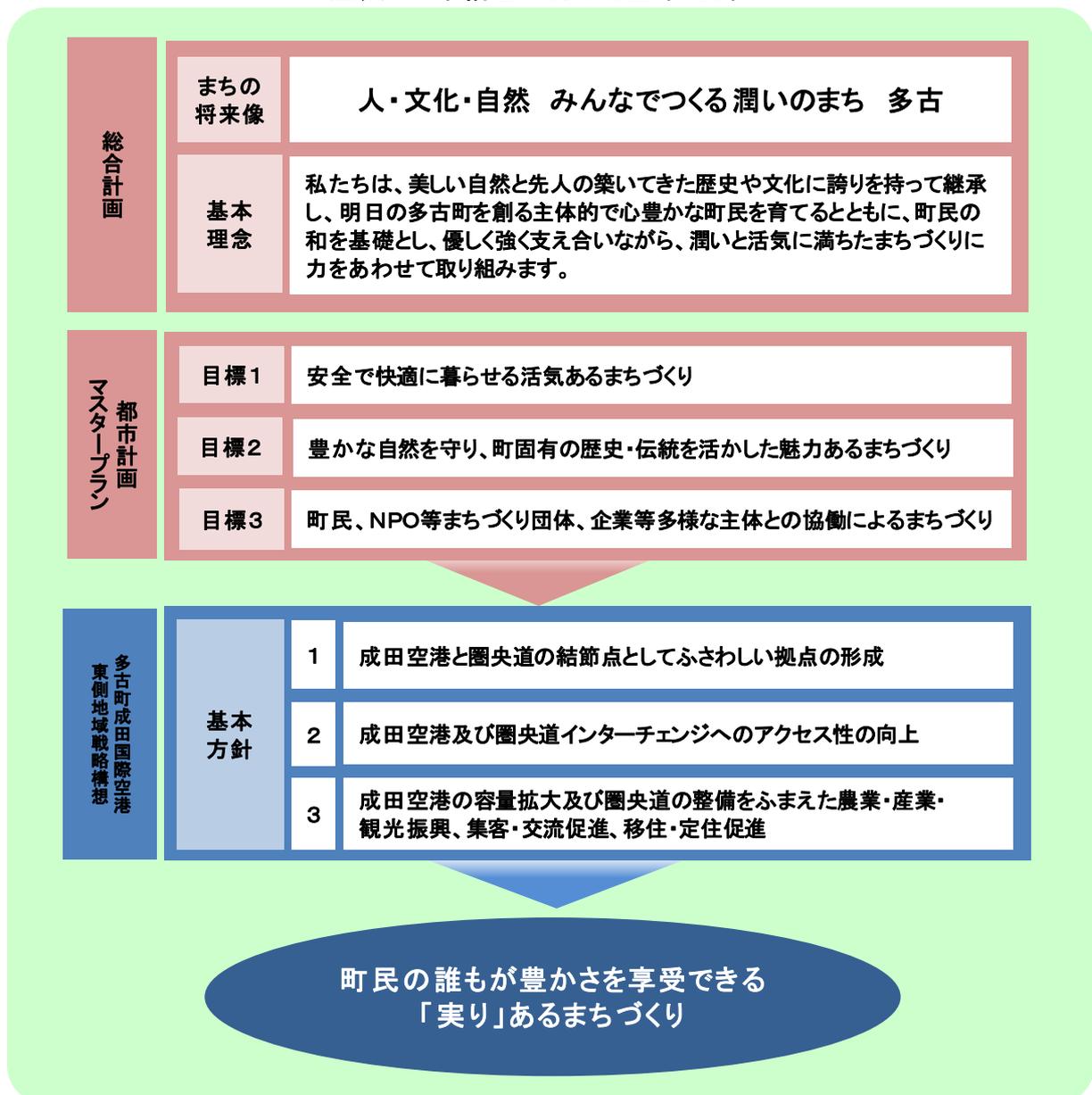


## 2. 基本方針

総合計画におけるまちの将来像「人・文化・自然 みんなでつくる潤いのまち 多古」や都市計画マスタープランのまちづくりの目標をふまえるなか、本構想における基本方針は、①成田空港と圏央道の結節点としてふさわしい拠点の形成、②成田空港及び圏央道インターチェンジへのアクセス性の向上、③成田空港の発着容量拡大及び圏央道の整備をふまえた農業・産業・観光振興、集客・交流促進、移住・定住促進としました（図表5）。

圏央道インターチェンジの整備進展や成田空港の更なる機能強化という機会を多古町の持続的な経済発展につなげられるよう、この基本方針に基づいた各種施策を推進するとともに、町民や地域が一体となって空港東側地域の魅力をさらに高め、本構想の計画期間である20年後に町民の誰もが豊かさを享受できる「実り」あるまちづくりを進めます。

図表 5 本構想における基本方針



## 20年後の多古町の目標像

成田空港は、2030年代に航空機年間発着回数50万回を達成し、空港をとりまく人流及び物流が飛躍的に増加しています。また、成田空港の東側地域に圏央道の3つのインターチェンジが整備され、東京都心や北関東とのアクセス利便性が向上し、これらの地域との人・もの・情報などの往来が活発になっています。

本町では、成田空港の発着容量拡大や圏央道インターチェンジを最大限活用するために、空港東側エントランスが開設されたほか、新交通システムが導入されました。空港東側エントランス周辺では、空港東側地域の玄関口として総合高速バスターミナルが整備され、その周辺には、商業施設や新たな住宅地、空港眺望公園等が整備され、新たな町民の移住や定住が進んでいます。また、成田空港及び圏央道と空港東側地域を結ぶ道路網の整備が進み、空港東側地域のポテンシャルが飛躍的に高まっています。

産業面では、こうした動きをビジネスチャンスととらえた物流業や製造業などの企業が空港東側エントランス周辺や圏央道インターチェンジ周辺などの産業用地に立地しています。また、農業の6次産業化を積極的に進めてきた多古町の農業者と地元の食料品製造業が共同開発した新しいコンセプトの商品は、国内のみならず成田空港を経由してアジア諸国で人気商品となり、多くのマスコミで取り上げられています。

観光面では、空港東側地域を起点に千葉県全域を対象とした広域的な観光ルートが定着し人気を博しているほか、成田空港から来日する外国人観光客等が町内に訪れ、またスポーツ合宿等のニュー・ツーリズムなど新たな観光スタイルが生まれ、多古町に賑わいが生まれています。

町内には、空港東側エントランス周辺や多古台周辺等に新たな住宅地が整備され、成田空港の機能強化により約7万人に増加した空港従業者や多古町に立地した企業の従業者のうち、町の自然環境や職住近接のライフスタイルを望む方等の町内への移住が、子育て中の若い世代を中心に進んでいます。多古町で生まれた子どもたちは、「多古の子 町の子 みんなの子」というスローガンのもとで、多古こども園や小・中学校、多古高等学校などの教育機関と地域が一体となった教育のもとで伸び伸びと育っています。そして、多古町に広がる美しい自然や歴史・文化に対する誇りを胸にたくましく成長した多古町の若者たちに、町民の誰もが豊かさを享受できる「実り」あるまちづくりの取り組みは引き継がれ、時代の潮流にあわせた新たな戦略のもとで、本構想は第2ステージを迎えています。

# 第3章 分野別戦略プラン

本町は、成田空港の発着容量拡大と圏央道の整備進展を地域経済の発展につなげ、町民の誰もが豊かさを享受できる「実り」あるまちづくりに向けて、5つの戦略プランのもと各種施策に取り組みます。

具体的な施策の展開図は図表6、分野別戦略プランの推進期間は図表7の通りです。

図表6 多古町成田空港東側地域戦略構想分野別戦略プラン

「多古町成田空港東側地域戦略構想」分野別戦略プラン



図表 7 「多古町成田空港東側地域戦略構想」分野別戦略プランの推進期間

分野別戦略プラン		短期 (5年以内)	中期 (10年以内)	長期 (10年超)
主要インフラの整備予定	成田空港の航空機年間発着容量50万回化			↔
	圏央道の全通		↔	
拠点形成	空港関連施設等の誘致		————→	●
	空港東側エントランスの整備		————→	●
	総合高速バスターミナルの整備		————→	●
	空港眺望公園・サービスエリア等の整備	————→	●	
	圏央道インターチェンジ周辺の利活用の促進		————→	●
	五辻地区における新たな土地利用の推進		————→	●
圏央道と成田空港のアクセス強化	県道成田松尾線の圏央道東側への延伸		————→	●
	国道296号4車線化と既存県道の機能強化		————→	●
	町道染井・間倉線の4車線化・県道昇格		————→	————→
	圏央道側道整備、機能補償道路・付替え道路の整備		————→	●
産業振興	企業誘致の推進	————→	————→	————→
	農業の6次産業化の推進と農業基盤の整備	————→	————→	————→
	環境に配慮したまちづくり(スマートシティの構築)	————→	————→	————→
観光振興(集客・交流促進)	広域観光ルートの創出	————→	●	
	観光振興の推進	————→	————→	————→
	集客・交流拠点の整備	————→	————→	————→
	観光振興体制の整備	————→	————→	————→
移住・定住促進	新たな空港用地・騒音区域からの移転促進	————→	●	
	新たな住宅地の整備	————→	●	
	住宅情報の整備(空き家バンク等)	————→	●	
	移住・二地域居住の促進	————→	————→	————→

(凡例)    ||||| 準備・要望等    ———→ 推進    ● 竣工・完成(見込み)

# 多古町成田国際空港東側地域戦略構想図

**■成田空港及び交通機能を活用した地域活性化に結びつける拠点の形成**

- ・空港関連施設の誘致
- ・空港東側エントランスの整備
- ・総合高速バスターミナルの整備
- ・圏央道インターチェンジ周辺の利活用の促進等



**■新交通システムの整備**

- ・新交通システムの整備

**■サービスエリア**

- ・空港眺望公園の整備

**■企業誘致**

- ・工業や物流等の産業集積
- ・空港関連産業等の誘致等

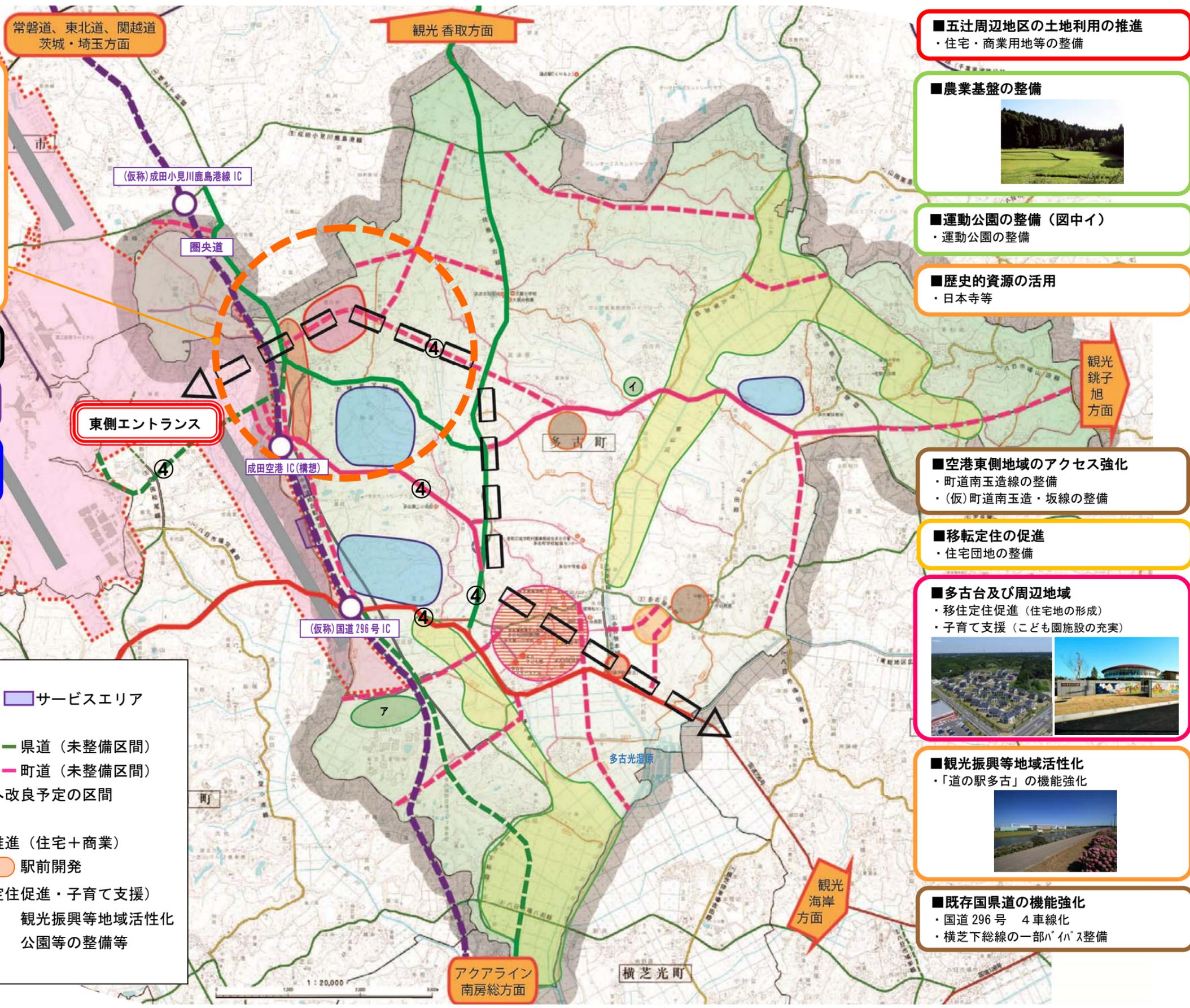
**■公園等への活用（図中ア）**

**■空港周辺の道路網強化**

- ・圏央道への新たなインターチェンジ整備、空港への乗入
- ・町道染井・間倉線の4車線化等

**凡例**

- 首都圏中央連絡自動車道
- 国道296号
- 県道（整備済区間）
- 町道（整備済区間）
- ④ 国道、県道、町道の4車線へ改良予定の区間
- ◁□□▷ 新交通システム
- 五辻周辺地区の土地利用の推進（住宅+商業）
- 企業誘致
- 多古台及び周辺地域（移住定住促進・子育て支援）
- 移転定住の促進
- 歴史的資源の活用
- 農業基盤の整備
- サービスエリア
- 県道（未整備区間）
- 町道（未整備区間）
- 駅前開発
- 観光振興等地域活性化
- 公園等の整備等



**■五辻周辺地区の土地利用の推進**

- ・住宅・商業用地等の整備

**■農業基盤の整備**



**■運動公園の整備（図中イ）**

- ・運動公園の整備

**■歴史的資源の活用**

- ・日本寺等

**■空港東側地域のアクセス強化**

- ・町道南玉造線の整備
- ・(仮)町道南玉造・坂線の整備

**■移転定住の促進**

- ・住宅団地の整備

**■多古台及び周辺地域**

- ・移住定住促進（住宅地の形成）
- ・子育て支援（こども園施設の充実）




**■観光振興等地域活性化**

- ・「道の駅多古」の機能強化



**■既存国県道の機能強化**

- ・国道296号 4車線化
- ・横芝下総線の一部バイパス整備

# 1. 拠点形成

## 現状と課題

多古町には、成田空港及び空港をとりまく交通機能を活用して地域活性化に結び付けられる拠点がありません。このことは、多古町が成田空港という世界有数の国際空港に隣接していながら、その経済波及効果が限定的なものに留まっている大きな要因の一つといえます。もっとも、多古町の将来を展望すると、成田空港と圏央道のインターチェンジという2大公共交通を結ぶ地域として、空港機能の更なる強化に向けて重要な役割を担うこととなります。

そのための課題は、成田空港の発着容量拡大と圏央道の整備進展の相乗効果を高められる拠点づくりとともに、その拠点が空港東側地域の玄関口として機能し、同地域の経済発展につなげられるような戦略的な取り組みを進めていくことなどがあげられます。

### (1) 空港関連施設等の誘致

- 成田空港の発着容量拡大と圏央道の整備進展を多古町における地域活性化の機会ととらえ、空港東側地域の「五辻地区」に空港関連施設の誘致を促進します。なお、2012年7月には、芝山町議会・多古町議会連絡協議会より、同年8月には多古町長より、成田国際空港(株)(NAA)に対して、空港東側地域を将来の空港施設用地として活用することを要望しています。

### (2) 空港東側エントランスの整備

- 成田空港の年間発着容量が50万回に拡大されることにより、これまで発着枠の制限から新規就航が進まなかった国際線、国内線やLCCが増便されるなど、成田空港を起点とした人流・物流の増加が見込まれています。
- また、成田空港の東側地域に圏央道が整備されることにより、空港東側地域と東京都心及び北関東などが環状に結ばれ、新たな人流・物流のネットワークが形成されます。このネットワークの競争力をさらに高めるために、空港東側地域の「五辻地区」に空港関連施設を誘致するとともに、新規エントランスの開設や、圏央道から空港へ乗入れる新たなインターチェンジの整備等によるアクセス利便性を向上させることが必要です。

### (3) 総合高速バスターミナルの整備

- 成田空港の東側エントランス付近に総合高速バスターミナルを整備し、空港の公共交通機関の一部として一体的に運用することで、成田空港の交通機能の向上を図ります。
- 本バスターミナルは、成田空港及び空港東側地域と首都圏広域を圏央道のインターチェンジを介して結ぶことで、成田空港のアクセス利便性の向上に寄与します。さらには、公共交通機関に乏しい空港東側地域の玄関口として、路線バスやパークアンドライドなどの需要に応える拠点として活用することで、同地域の移住・定住・交流人口の増加にもつながることが期待できます。その他にも、本バスターミナルは、災害時の防災拠点や高速バス利用者及び乗務員のための利便施設、商業・観光施設

などを併設することで、より多くの利用者ニーズに対応することが可能です。

図表 8 総合高速バスターミナルの概要(イメージ)

機能	内容
総合高速バスターミナル機能	圏央道を経由する高速バスをはじめとした各種バスが発着し、乗換え拠点としての機能を担う。 (高速バス、シャトルバス、路線バス、定期観光バス)
自動車利用との交通結節機能	自動車との結節性を高め、総合的な交通ターミナルとしての機能を充実させる。(パークアンドライド用駐車場、キスアンドライド用停車場、レンタカーなど)
災害時の防災拠点	大規模災害時における自衛隊、消防などの集結地、救援物資の中継地点、復旧資材等の受渡し場所など
高速バス利用者及び乗務員のための利便施設	高速バス利用者のための利便施設(待合室、トイレ、コンビニ、交通情報提供センターなど) 乗務員のための利便施設(休憩所、宿泊施設など)
商業・観光施設	バスターミナル内または隣接地で商業・観光機能を配置し、集客力を向上させる。 (商業施設) 土産物店、地元産品販売店、飲食店等 (観光施設) 観光情報センター、スパ施設、ホテル等

注：キスアンドライド…運転ができる家族の一人が、通勤・通学する家族を車で、近くの駅まで送り迎えすること。

### ◆先進事例紹介① 「木更津金田バスターミナル」

木更津金田バスターミナルは、東京湾アクアライン木更津金田 IC に近接した位置にあり、運営は木更津市が行っている。

木更津金田バスターミナルには、高速バス停のほかに、待合所、駐輪場、タクシープール、一般車送迎用乗降場が整備されている。

また、周辺には、高速バス利用者用の駐車場やレンタカー営業所、飲食店等が立地している。

木更津金田バスターミナルには、主に木更津市周辺や房総各地と都内主要駅や川崎駅、横浜駅、羽田空港等を結ぶアクアライン経由の高速バス路線が乗入れている。

木更津金田バスターミナル(愛称:チバスタアクア金田)案内図



#### (木更津金田バスターミナルの概要)

待合所	バスを待つための待合所、トイレ、バス乗車券販売窓口、飲料自動販売機等が設置
駐輪場	自転車と原動機付自転車(50cc以下)が駐輪できる無料の駐輪場
タクシープール 一般車送迎用乗降場	タクシー用乗降場の他、一般車送迎用乗降場が設置
市営駐車場	バスターミナルに市営駐車場を併設 市営金田第1駐車場 290台(料金500円/24時間) 市営金田第2駐車場 108台(料金400円/24時間)



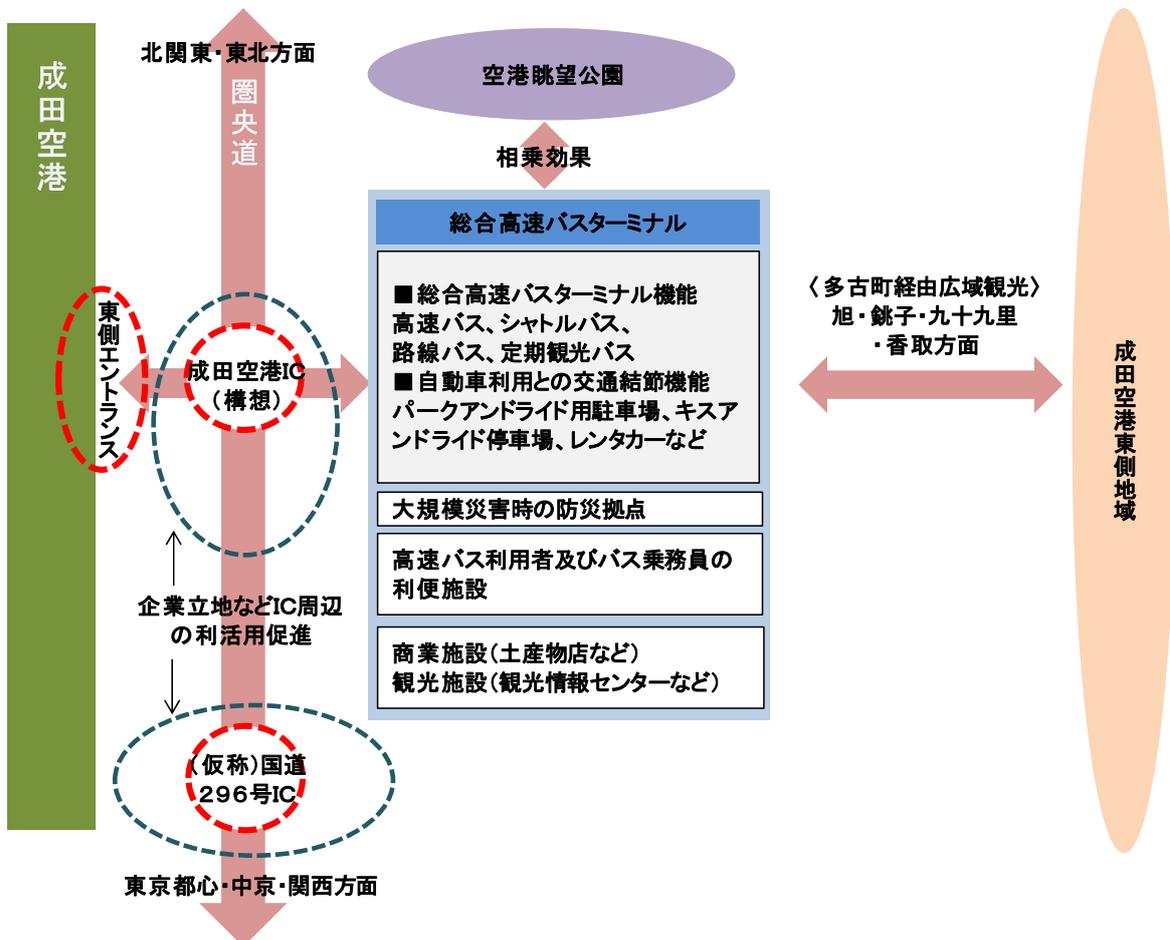
#### (4) 空港眺望公園・サービスエリア等の整備

- 成田空港と圏央道の隣接地に、空港を一望できる空港眺望公園の整備を促進します。同公園には、多古町で採れた新鮮な野菜や多古米などを扱うアンテナショップなどの商業機能や地域の新鮮な食材を使った料理を提供するレストランなどを付設するほか、空港東側地域を起点とした観光ルートなど観光情報の提供コーナーを設置し、空港東側地域を起点とした広域観光を来訪者に促します。また、訪日外国人旅客等の取り込みを見込みます。
- 空港眺望公園にあわせて、スポーツ野外レクリエーション施設、オートキャンプ場等の多目的施設の整備を促進します。

#### (5) 圏央道インターチェンジ周辺の利活用の促進

- 空港東側地域に新たに整備される圏央道インターチェンジ周辺は、広域交通の利便性の高さから、流通産業をはじめとして、輸出入や出張などで空港を利用する事業者などに対する優位性は高まるものとみられます。
- こうした優位性を積極的に情報発信するなかで、圏央道インターチェンジの周辺などを中心に流通産業や各種製造業などの産業立地を促進します。

図表 9 空港東側地域の拠点形成のイメージ



## (6) 五辻地区における新たな土地利用の推進

- 成田空港の東側エントランスや圏央道インターチェンジに隣接した五辻地区周辺において、成田空港や圏央道の波及効果を受けとめるため、商業用地及び新たな住宅用地の整備を促進します。
- また、新たな空港用地となる一畝田地区等の移転用地となる住宅用地を確保します。
- 上記のような、成田空港と圏央道の立地を活かした積極的な土地利用を図り、地域の発展につながるような土地利用を推進します。

## 2. 圏央道と成田空港のアクセス強化

### 現状と課題

多古町では、成田空港への交通利便性の向上を図るため、町の東西交通の基軸となる町道南玉造線の道路改良事業を実施しています。もっとも、同事業だけでは、圏央道及び成田空港の発着容量 50 万回拡大のポテンシャルを空港東側地域に取り込むには不十分であり、更なる成田空港及び圏央道と空港東側地域を結ぶ道路インフラの整備が課題です。

多古町は、今後、成田空港と空港東側地域のアクセス向上に向けた道路整備（図表 10）や公共交通網の整備を促進します。

### (1) 県道成田松尾線の圏央道東側への延伸

- 空港東側から空港への道路アクセスの改善のために必要となる幹線道路の整備として、県道成田松尾線の空港から圏央道東側への延伸を促進します。

### (2) 国道 296 号の 4 車線化と既存県道の機能強化

- 空港機能強化により国県道における交通量の増加が予測されることや、圏央道（仮称）国道 296 号インターチェンジから多古町中心部及び匝瑳市方面へのアクセスを強化するため、国道 296 号の 4 車線化を促進します。
- また、主要地方道横芝下総線のバイパス（横芝から国道 296 号への圏央道側道機能を兼ねた）整備や、既存県道の舗装強化など、道路機能全般の強化を促進します。

### (3) 町道染井・間倉線の 4 車線化・県道昇格

- 空港周辺における道路ネットワークを改善するため、町道染井・間倉線を県道に昇格させ、4 車線（片側 2 車線）化及び歩道整備等、広域幹線道路としての機能強化を促進します。

### (4) 圏央道の側道整備、機能補償道路・付替え道路の整備

- 圏央道の五辻地区周辺から（仮称）国道 296 号インターチェンジ及び多古工業団地までの区間に、圏央道東側への側道整備を促進します。
- また、空港機能強化に伴い東西分断を生まないよう、空港用地内に取り込まれる道路の機能補償並びに付替えについて、管理主体を含め、計画的かつ総合的に検討を進めます。

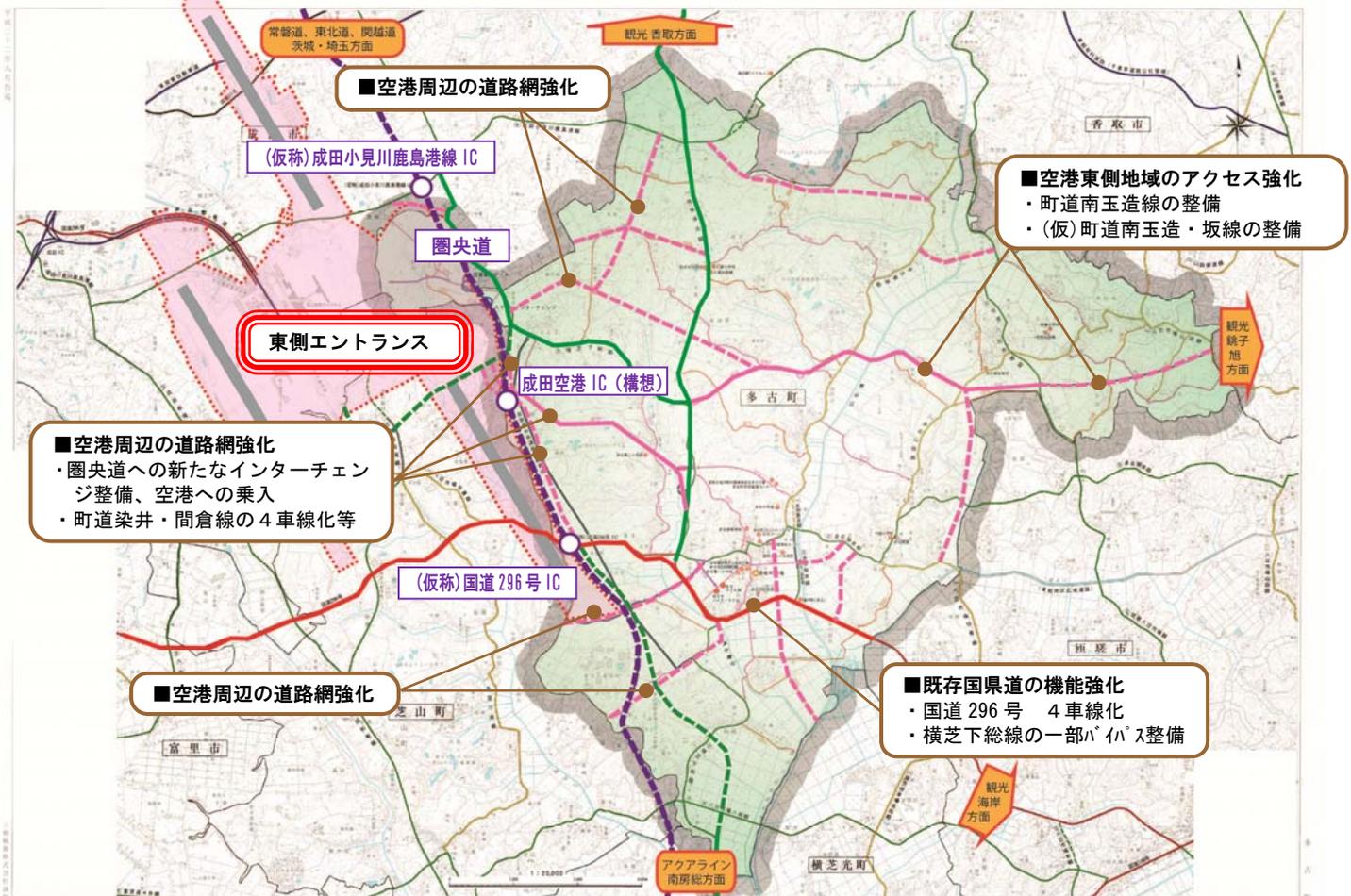
### (5) 公共交通網の充実、新交通システムの導入

- 企業の雇用確保や勤務者の利便性向上を図るため、平成 29 年 10 月より、空港シャトルバスの一部を工業団地経由とし、工業団地から都心へのアクセスを強化しています。さらに、成田空港をはじめとする町外並びに町内における交通手段を確保するため、路線バス等の機能強化を進めます。
- 空港各ターミナルから新たな空港用地を経由し、新たな機能形成を見込む五辻地区並びに町中心部を結び、匝瑳市方面に至る、新交通システムの導入を促進します。

## (6) 町道の整備・機能強化

- 空港機能強化に伴い増加する交通量の分散と新市街地形成に資するために、(仮称) 町道鷹の巣・二本松線の整備を計画します。
- 空港東側地域の広域的な道路ネットワークの形成に資するため、町東西連絡道路(町道南玉造線)の整備を実施します。さらに、道路未整備区間において、(仮称) 町道南玉造・坂線の整備を計画します。
- 空港機能強化により交通量の増加が予測され、県道佐原多古線及び成田小見川鹿島港線からの交通流入が見込まれることから、町道御料地・二本松線の道路改良工事を計画します。
- 空港南部方面へのアクセス強化のため、町道水戸・千田線の道路改良工事を計画します。
- 多古工業団地地域が圏央道の整備及び空港機能強化により、地域分断されることから、当該地域へのアクセス強化のため、町道染井・林線の道路改良工事を計画します。
- 空港機能強化により交通量の増加が予測され、多古中心市街地から国道296号の渋滞が見込まれます。そこで、中心市街地北側環状線(県道多古・笹本線バイパス～町道八田線)と空港アクセス道路として機能強化を推進する町道染井・間倉線の間を接続する(仮称) 町道飯笹線の整備を計画します。
- 調和とバランスのとれた、町内道路ネットワークを構築するため、新設町道の整備と既存町道の機能強化を検討します。

図表 10 多古町の道路整備の概要



## 3. 産業振興

### 現状と課題

多古町の産業の現状をみると、事業所数が1990年代半ば以降基調的な減少傾向となっているほか、基幹産業の一つである農業も農業従事者の高齢化などから産出額が落ち込んでいます。事業所数の減少や地場産業の低迷などが地域にもたらす影響として、地域経済の疲弊や税収の落ち込みによる行政サービスの低下、人口流出の加速、里山の荒廃などが懸念されます。

こうした地域産業の衰退の動きに歯止めをかけ、地域を持続的に発展可能な軌道に乗せるためには、成田空港の更なる機能強化や圏央道の整備による地域のポテンシャル向上を町内外に積極的に情報発信して企業誘致を促進することや、次世代型の産業や農業の6次産業化など付加価値の高い新産業を地域が一体となって創出していくことなどが課題です。

### (1) 企業誘致の推進

- 多古町の企業立地環境は、成田空港に隣接していることや地盤が強固で災害に強いなど好条件の割には立地に係るコストが低い（地価が安い）など、企業が立地しやすい環境です。さらに、将来を展望しても圏央道の整備進展や成田空港の発着容量50万回に拡大など企業が立地を検討する上でプラスの材料もあります。
- 一方で、新たな空港用地の拡張や騒音区域の設定による集団移転等に伴う人口の転出抑制や転入促進のためには、新たな雇用の場の創出が必要不可欠であることから、空港周辺に空港関連企業等の誘致を推進する必要があります。
- 企業誘致をとりまく環境をみると、平成26年の「まち・ひと・しごと創生法」の施行以降、全国各県、各市町村で企業誘致活動が行われ、競争が激しくなっています。従って、今後の企業誘致戦略においては、業種や企業規模別に企業の立地ニーズを十分ふまえ、多古町の地域特性に即した企業を誘致対象に、地域をあげて個別企業のニーズに真摯に対応していくことが求められます。多古町は、成田空港の更なる機能強化や圏央道の整備により、地域のポテンシャルを活かした工業や物流等の産業集積を図るため、積極的に企業誘致を推進します。

#### 1) 食料品製造業

- 多古町の基幹産業の一つである農業との相乗効果を図れる業種として食料品製造業があげられます。多古町には、食料品製造業の集積が多くみられるなど、巨大マーケットを抱える東京都心へのアクセス利便性が高く、東京都心に販売先を抱える食料品製造業の立地に適しています。さらに、多古町が推進する農業の6次産業化と提携することで、新たな商品開発ができれば、将来的には成田空港を経由して、急速に市場が拡大しているアジアへの取引が広がる可能性もあります。

#### 2) 流通産業

- 成田空港と圏央道という2大公共交通機能を最も有効に活用できる業種として流通産業（卸売業、小売業、運輸業、倉庫業など）があげられます。実際に、多古町に立地している道路貨物運送業は事業所数の構成比

が 6.8%で最多となっています。成田空港と圏央道インターチェンジの間を円滑かつ短時間で結ぶ空港東側エントランスとアクセス道路の整備により、圏央道インターチェンジ周辺地域の物流拠点としての優位性がさらに向上します。食料品卸売業者や食料品製造業に製品や原材料を提供する冷凍・冷蔵倉庫（冷蔵庫団地）を誘致できれば食料品製造業との相乗効果が図れ、多古町に立地するメリットがさらに高まります。

### 3) 医薬品・サプリメント製造業

- 日本人の平均寿命の高止まり（2016年：女性 87.14 歳、男性 80.98 歳）や高齢化の進行、健康に関する意識の高まりなどを背景に医薬品・サプリメントの生産は大きく増加しています（2015年医薬品生産金額：6兆8,204億円、2006年比+5.9%、薬事工業生産動態統計調査）。また、成田空港の医薬品の輸出入額は2007年の6,292億円から2016年の1兆4,057億円（2007年比+123.4%）と大きく伸びています。医薬品製造において医薬品製造用水の品質確保は大きな課題ですが、多古町の水資源を活用するという観点からみても医薬品・サプリメント関連企業の誘致は多古町に適しています（株式会社龍角散ヒアリングによる）。

### 4) 環境関連産業（環境・リサイクル、エネルギー）

- 環境にやさしい空港「エコ・エアポート」を推進している成田空港にとって、航空機発着容量50万回拡大に伴い増加する廃棄物のリサイクルは大きな課題であり、環境・リサイクル事業者にとっては大きなビジネスチャンスといえます。また、東日本大地震の発生以降、エネルギーの安定供給と再生可能エネルギーの活用の取り組みが進められており、太陽光や風力、地熱、水力、木質バイオマス等によるエネルギー供給の取り組みが進んでいます。多古町は、これらの新たな環境関連産業の立地促進を進めていきます。なお、環境・リサイクル分野は、政府の日本再興戦略（平成28年6月2日閣議決定）のなかで日本の再興の鍵となる新たな有望成長市場に位置づけられています。

## ◆立地企業紹介① 富士正食品株式会社

### 1. 富士正食品株式会社の概要

- ・ 明治 44 年（1911 年）創業の老舗企業。「富士正食品」としては創業 50 年。本社は銚子市。
- ・ 昭和 39 年に醤油醸造から食品製造に舵を切り、「富士正食品」に社名変更。ピーナツ味噌の製造に着手
- ・ 主力商品は「ピーナツハニー」。他にも落花生を使用した製品、いわし等を中心とした佃煮など。
- ・ 工場は銚子に第 1、第 2 工場。営業所は札幌市と熊本市。
- ・ 平成 3 年に成田工場（ゼリー専門）を開設。
- ・ 従業員は 165 名。うち正社員が 99 名、パート等が 66 名。（成田工場は従業員 46 名。うち正社員が 29 名、パート等は 17 名）



富士正食品(株)本社（銚子市）

### 2. 多古工業団地に立地した経緯

- ・ 健康志向やダイエットの普及により、ゼリーの人気が高まり、業績向上とともにゼリーを増産、成田工場が手狭になった。
- ・ 工場は住宅地の一角にあり、敷地の拡大も不可能、工場の老朽化も進み修繕や改修が頻繁に必要になっていた。
- ・ 移転を検討し始めたころ、成田工場周辺に 2500 坪の土地を見つけたが、開発予定地と隣接していたことから見送った。また、大栄付近でも移転先を検討したが、必要面積は確保できたが、水量が確保できないことから断念した。
- ・ そのころ、以前に多古町から送付された、多古台への企業誘致の郵便を読み返し、多古町に連絡したところ、多古工業団地の隣接地を紹介してもらい、立地に至った。

### 3. 立地の決め手

- ① 水が豊富に使えること。
- ② 土地の価格が安価だったこと（2,780 坪で成田市の半額以下）。
- ③ 多古町の対応がよかったこと。候補地の半分は町有地、半分は民間所有地だったが、町の協力により民間所有地の取得が実現した。
- ④ 成田から車で 20 分であるため、多古町に移転後も成田工場の従業員はすべて通勤できること。
- ⑤ 圏央道多古インターができれば、取引先を都内に多く持っているため、情報収集や配送においてメリットが期待できること。

## ◆立地企業紹介② 株式会社龍角散

### 1. 株式会社龍角散・千葉工場の概要

- ・創業が明治4年、会社設立は昭和3年の老舗企業。
- ・本社は、東京都千代田区東神田
- ・工場・研究所は千葉工場（多古町）のみ。
- ・営業所は大阪市と福岡市。
- ・千葉工場で生産している製品  
「一般用医薬品分野」  
龍角散、龍角散ダイレクトスティック、  
龍角散ダイレクトトローチマンゴー、  
お薬飲めたね（嚥下補助剤）  
龍角散ののどすっきり飴  
「医療用医薬品分野」  
ロキソプロフェン錠・ロキフェン錠（鎮痛・抗炎症、解熱剤）  
カルデミン錠（活性型ビタミンD3製剤）
- ・千葉工場は平成3年に操業開始。
- ・従業員は65名（うち正社員42名、パート・派遣社員23名）。



（株）龍角散千葉工場（多古町）

### 2. 多古工業団地に立地した経緯

- ・創業時の生産拠点は現本社がある東京都神田。手狭となったため、昭和37年に船橋市薬円台に移転（敷地面積：約10,000㎡）。
- ・昭和48年、船橋工場が龍角散、クララ、龍角散トローチの一貫製造工場として完成。
- ・昭和50～60年代にかけて工場周辺の宅地化が進み、操業環境が急速に悪化。
- ・茨城県や福島県など複数の移転候補地を比較検討。企業庁から多古工業団地の紹介があり、条件に合っていたため立地を決めた。

### 3. 立地の決め手

- ①「水」がきれいで豊富に使え、安価なこと。
- ②船橋工場に勤務していた従業員が通勤可能な場所だったこと。
- ③分譲価格の安さ（敷地面積は33,092㎡と従前の船橋工場の3倍に拡張）。

### 4. 立地環境の強み

- ・圏央道のインターチェンジができれば、本社（東京都千代田区東神田）や取引先（長野県等）への配送面でのメリットが見込める。

## ◆立地企業紹介③ 株式会社LSIメディエンス

### 1. 株式会社LSIメディエンスの概要

- ・1975年4月、資本金が30億円で設立。
- ・本社は、東京都千代田区内神田。
- ・主な事業として臨床検査、診断薬、創薬支援。
- ・(株)LSIメディエンスは三菱ケミカルホールディングスグループの一員で、ヘルスケア分野の検査・分析関連事業を展開。
- ・多古町に位置する拠点「診断薬 生産・R&Dセンター」は、約40か国に製品を提供する診断薬事業の生産・開発拠点です。



### 2. 多古町工業団地に立地した経緯

- ・診断薬事業の拠点は、製造拠点（千葉県八千代市）と研究開発部門（千葉県多古町）の2拠点であったが、八千代市での施設の増強・拡充が困難となる。
- ・従来の多古町に設置していた開発拠点の施設を拡充し、ここに製造拠点を統合することを決定。
- ・2016年4月から「株式会社LSIメディエンス 診断薬 生産・R&Dセンター」と名称も新たにして稼働を開始。

### 3. 立地の決め手

- ・多古町の企業誘致制度が充実していたこと、八千代市の製造拠点に勤務していた従業員も通勤可能な距離であったこと。
- ・多古台エリアでは、高速バスが発着するバスターミナル、小中学校や集合住宅などの住環境の開発・整備が進み、他県からの転住も容易な環境である。

### 4. 立地環境の強み

- ・首都圏中央連絡自動車道（圏央道）が開通すれば、首都圏間のアクセスが容易になり、デリバリー等に大きなメリットとなる。
- ・成田空港の近傍でもあり、輸出面における優位性や国内外のお客様の見学、従業員の国内外への出張にも利便性が高い。

※多古町企業誘致条例の適合第1号。

## (2) 農業の6次産業化の推進と農業基盤の整備

### 1) 農業の6次産業化の推進

- 多古町は、全国で2番目に田の耕地整理（明治34～43年）が行われるなど古くから農業の盛んな地域であり、多古米は江戸時代から味の良さが評判になっていました。多古町の農業産出額は、千葉県郡部のなかでトップとなっているなど、多古町にとって農業は基幹産業の一角を占めています。
- しかしながら、農業従事者の高齢化の進行に伴う後継者不足やTPP（環太平洋戦略的経済連携協定）の行方など農業をとりまく環境は厳しさを強めています。今後も多古町が持続的な農業振興を目指すためには、これまで通り、品質の高い農作物を栽培することに加え、高付加価値化による収益性の向上が必要不可欠です。多古町では、2014年から6次産業化に取り組み農畜産物を使った商品開発等の補助事業を行っています。なかでも「多古町で作ったさつまいもプリン」は、2015年内閣府後援のふるさと名品オブ・ザ・イヤー“自治体が勧める地域の逸品（まちの逸品）”部門で優良賞を受賞しています。このように町の特産品となるような商品開発等の支援を町が行うことで、地域が活性化するような支援を推進しています。こうした事業とともに多古町の豊かな緑を活用したグリーン・ツーリズムとの相乗効果も図るなど農業価値の最大化を目指しています。
- なお、2011年3月には6次産業化法が施行され、農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど国をあげて支援する体制ができました。また、千葉県にも千葉県6次産業化サポートセンターに6次産業化プランナーが配置され、サポートを受けることも可能になっています。

### 2) 農業基盤等の整備

- 効率的な農業経営を目指すため、農地の基盤整備事業を行い、農地の大規模化と集積化を進めるとともに、農地所有適格法人などの育成により、安定した農業経営を促進します。
- 担い手への農地集約を図り、経営を安定させるため、農業基盤整備事業により、移転地域農地を含めた生産基盤の大規模化を進めます。
- 多古町の水田は、まだ用水がパイプライン化されておらず、また農道が狭い箇所が多く存在します。町内の整備されていない農地の基盤整備（区画整理、用排水整備、暗きょ排水整備、農道整備）を促進します。
- 多古町の成田用水地区について、農業用水の安定的な確保に努め、更なる地域農業の振興を図る必要があることから、成田用水の改築事業等を促進します。
- また、騒音下の農用地における大規模ほ場整備事業をはじめとする営農対策を促進します。
- 空港機能強化に伴い、空港周辺の流域が大きく変化することが見込まれることから、農地の排水対策に対応して、栗山川水系の河川改修を促進します。

### 3) 良好な営農環境の保全と農業後継者の育成

- 本構想により、空港機能強化や圏央道整備をインパクトとした企業誘致

を空港隣接地域で計画的に進めるため、また良好な営農環境を保全していくために、多古町農業振興地域整備計画の見直しを行い、適切な土地利用を図ります。

- 持続的かつ安定的な営農体制を維持していくために、新規就農者や担い手を確保するとともに、集落営農や法人化による農地集積により、農産物の生産拠点化を目指します。
- 航空機騒音地域の拡大による騒音移転については、農業集落排水事業加入者の減少が予想されることから、より効率的かつ適切な施設の維持管理体制の検討が必要となります。また、新たな移転先においては、合併浄化槽設置者の増加が見込まれることから、整備費補助の財源を確保する必要があります。

#### 4) 次世代施設園芸拠点づくり等新産業の推進

- 新しい農業の実現を図るため、次世代施設園芸拠点づくり等新産業の推進として、環境制御型生産基地、流通集積施設、資源循環施設の整備を促進します。
- 町内の森林資源を活用するため、木質バイオマス資源を利用した再生エネルギーの有効利用を目指します。
- また、多古町は、地域ブランドとして確立した大和芋や産地指定のニンジンなど根菜類の品質が高く、生産性向上を集出荷施設の整備を推進し、園芸農家の経営安定化を図ります。

## ◆事例紹介② 多古町の6次産業化の取り組み

### (6次産業化の取り組んだ経緯)

多古町の地域資源を活かした特産品開発や高付加価値化、魅力発信活動などの地域ブランドづくりのための補助事業として、平成26年度から「多古町農畜産物ブランド化推進事業」を開始。

### (6次産業化取り組み状況)

平成26年度から補助事業を開始。事業費の1/2補助(50万円上限)。

平成26年

商品名	商品説明
多古町で作ったさつまいもプリン	多古町特産のサツマイモ(べにはるか)を使用し、常温保存可能なポーションカップ入りのさつまいもプリン。
さつまいも茶	さつまいもの皮部分等を乾燥等させパウダーをさせ、お茶をつくる。
古代米あめ	多古町で作付生産している古代米の粒が見える飴。

平成27年

商品名	商品説明
多古米のせんべい	多古米を白生地にしたせんべい。
多古米のもっちりプリン	地域ブランド米でもある「多古米」を使用し、常温保存可能なポーションカップ入りの多古米プリン。

平成28年

商品名	商品説明
イワシのなれずし	新鮮なイワシと多古米を合わせて漬け込んだ発酵食品。
ヒラタケたっぷり中華風ちまき	多古町産の米・もち米・ヒラタケをたっぷり使ったちまき。

平成29年

商品名	商品説明
多古米を使ったべっこう飴	多古米のポン菓子が入った、多古の新米かあさん「ふっくらたまこ」型のべっこう飴

## (取り組みの効果)

米や野菜など農産物は、首都圏を中心にある程度のネームバリューがありますが、加工品に関しては町の特産品と呼ばれるものは少なくなっています。そのため、6次産業化で商品開発に取り組むことにより町の特産品づくりに支援をしています。

支援を始めて4年となりますが、平成26年度事業で補助をした「多古町で作ったさつまいもプリン」は、2015年内閣府後援のふるさと名品オブ・ザ・イヤー“自治体が勧める地域の逸品(まちの逸品)”部門で優良賞を受賞し、町の特産品の一つとして認知をされてきています。

また、商品が完成した際、多古町の情報発信の場である「道の駅多古」にて新商品販売イベントを実施しているとともにマスコミに情報提供を行い、情報の発信を行っています。



## (今後の課題)

講演会等を開催し、開発者や興味がある方等に売れる商品・販路等についての情報発信をしています。なかなか販路拡大にはつながっていません。収入を増やすためにも販売先の拡充に取り組まなければなりません。

現在、町は町内外で参加しているイベントにおいてのPRを実施しており、今後も継続してPR活動を促進していきます。また、商工会などの異業種とも連携し、協力・支援を得られるような活動を行っていかねばなりません。地域を活性化させるためにも、農商工の業種を超えた連携による相乗効果が必要不可欠です。

### (3) 環境に配慮したまちづくり（スマートシティの構築）

- 地球温暖化など環境問題への配慮と持続可能な社会を目指して、再生可能エネルギーやスマートグリッドなどを活用した環境配慮型都市（スマートシティ）の構築に向けた取り組みが世界中で加速しています。千葉県内でも、柏の葉キャンパスが「公民学連携による自律した都市経営」をテーマに地域活性化総合特別区域（総合特区）の認定を受けて取り組んでいます。
- 多古町でも、従来から環境保全や地球温暖化防止に関する町民の意識啓発や本町の事務事業で排出される温室効果ガスの削減に取り組んできました。成田空港もエコ・エアポート基本計画でCO<sub>2</sub>排出削減目標を定めるなど地球環境への取り組みを行っており、空港周辺地域でもそれぞれ同様の取り組みがみられます。ただし、これまでの取り組みは個々の活動に留まっており、地域が一体となった取り組みには至っていません。今後は、成田空港が核となって、地域一体で環境に配慮したまちづくりに取り組むことが求められています。このような方針を成田空港周辺地域が前面に打ち出すことにより、空港周辺地域に最先端の環境関連企業が集積するなど、成田空港周辺地域の魅力を高める付加価値となります。
- なお、多古町では、住宅開発が進んでいる多古台において環境配慮型住宅をコンセプトとしたまちづくりを進めているほか、「道の駅多古」に電気自動車充電スポットを設置する取り組みを行っています。また、今後は、新たに整備する五辻地区の複合開発における環境配慮型の都市づくりの検討など環境に配慮したまちづくりを推進します。

## 4. 観光振興、集客・交流促進

### 現状と課題

成田空港の容量が30万回に拡大し、2017年で就航都市数は海外38か国・3地域の111都市、国内が18都市で過去最高となっています。今後も50万回に拡大することに伴うLCCや国際・国内線などの新規就航などにより、成田空港を拠点とした新たな観光ツアーが増えるなど交流人口の増加が見込まれています。

目玉となる観光施設が少ない多古町の2016年の観光入込客は61万人と成田市(1,478万人)の4.1%に留まっています。また、成田空港を利用して訪日した外国人の都道府県別訪問率(2010年)をみると、東京都の87.1%に対し、千葉県は21.2%(うち成田8.2%)と低位に留まり、前泊・後泊の需要を割り引いて考えると、千葉県全体でみても外国人の観光入込客はかなり限定的となっています。

これらの状況からみると、多古町が航空機発着容量拡大に伴う新たな観光客の受け皿となるためには、広域観光ルートの創出やニュー・ツーリズムの推進など、これまでにない取り組みにより新たな地域の魅力や観光需要を生み出し、町内外に向けて情報発信していくことが必要です。

#### (1) 広域観光ルートの創出

- 多古町では、散歩コースマップ「たこるんぱ(図表11)」、サイクリングコースマップ、「レンタサイクルで行くTAKO発見&体験の旅(図表11)」を作成し、町内の観光資源をネットワーク化することで地域の魅力の向上に取り組んでいます。しかしながら、多古町の「道の駅多古あじさい館」や日本寺などの観光資源は、単体で見ると観光客へのアピールに乏しいことも事実です。成田空港を利用する観光客の目を空港東側地域に向けさせるには、犬吠埼や香取神宮、九十九里浜など、もっと大きな目線で観光地・観光施設を結ぶ観光ルートをつくるなど広域連携が必要不可欠です。空港東側エントランス及び圏央道インターチェンジに隣接した総合高速バスターミナルなどを発着点として、北総・南総方面への魅力的な観光ルートづくりを推進します。

図表 11 散歩コースマップ「たこるんぱ」と「レンタサイクルで行くTAKO発見&体験の旅」



## (2) 観光振興の推進

### 1) 訪日外国人等多様な観光客の積極的な受入れ

- 平成 28 年 3 月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」では、観光は、真に我が国の成長戦略と地方創生の大きな柱であるとの認識されており、観光先進国の実現に向け、以下の 3 つの視点での観光振興が目標とされています。
  - 視点 1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に
  - 視点 2 観光産業を革新し、国際競争力を高め、我が国の基幹産業に
  - 視点 3 すべての旅行者が、ストレスなく快適に観光を満喫できる環境に
- このうちの「視点 1 観光資源の魅力を極め、地方創生の礎に」に関する施策として、「景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上」「滞在型農山漁村の確立・形成」「地方の商店街等における観光需要の獲得・伝統工芸品等の消費拡大」「広域観光周遊ルートの世界水準への改善」等の取り組みが求められています。
- 多古町の地域資源をみると、豊かな緑や田園風景、温暖な気候、農業（新鮮な食材）、ゴルフ、町民のホスピタリティなどがあげられます。これらの地域資源を積極的に活用し、地方創生の柱となるような観光振興を推進します。

項目	内容
景観の優れた観光資産の保全・活用による観光地の魅力向上	地域固有の景観を、観光資源として「守り」、より魅力的に「育て」、まちづくりを通して「活用」する取り組みを強力に進めます。
滞在型農山漁村の確立・形成	訪日外国人旅行者に、美しい農山漁村等で日本の自然や生活を体感し満喫してもらうため、「農泊」推進地域を選定し、地域の情報発信や「農泊」という滞在手段の提供、関連施設の整備等を支援していきます。
地方の商店街等における観光需要の獲得・伝統工芸品等の消費拡大	全国の地方の商店街・中心市街地等について、インバウンド需要獲得のための取り組みを支援します。 また、地域の伝統的工芸品の消費の拡大を強力に進めます。
広域観光周遊ルートの世界水準への改善	専門家チームの派遣のほか、テーマ別ルートや都市内ミニルートの設定を行うことにより、内外の多様な観光ニーズに余すことなく応えます。

資料：明日の日本を支える観光ビジョン（平成 28 年 3 月：明日の日本を支える観光ビジョン構想会議）

### 2) ニュー・ツーリズムの推進

- ニュー・ツーリズムとは、従来の観光旅行とは異なり、旅先での人や自然との触れ合いなど地域の特性が重要視された新しいタイプの旅行です。
- 多古町においても、町の地域資源を積極的に活用し、多古町の風土にあったニュー・ツーリズムとして以下の取り組みを推進します。

#### (ヘルス・ツーリズム)

- ヘルス・ツーリズムとは、医学的な根拠に基づく健康回復や維持・増進につながる観光のことで、主に医療行為を受けるための手段として行われるメディカル・ツーリズムなども広義の意味でヘルス・ツーリズムに含まれます。

- 多古町の豊かな緑を活用した森林療法や新鮮な食材の提供による食事療法などに加え、美容に関するサービスを提供することで、多古町に来れば健康でキレイになれるという「健康・美容ツーリズム」を推進します。多古町が成田空港に近いという利点を活かして、アジアの女性の「健康で美しくなりたい」というニーズも取り込みます。

#### (スポーツ・ツーリズム)

- 千葉県は年間を通して温暖な気候に恵まれており、多古町を含む下総台地は、なだらかで平坦な土地が多いことから、グラウンドや競技場の整備に適しています。また、多古町は、中学校や多古高等学校にゴルフ部があるなどスポーツが盛んな土地柄です。
- これらの地域の特徴を活かして、大型スタジアムの誘致を推進するとともに、サッカーやテニス、ゴルフ、サイクルスポーツ（注）などの合宿・試合の受け皿としての機能強化を図ります。2012年はLCC元年といわれるようにジェットスター・ジャパンやエアアジア・ジャパンが大阪、札幌、福岡、沖縄に新たに就航しました。こうした割安な航空券を活用して、例えば、年の半分近くは雪に閉ざされる北海道の冬のスポーツ需要に対応するなど、多古町の成田空港に近いという強みを前面に押し出すことで、スポーツ関連需要を多古町に取り込みます。

(注) 千葉県観光物産協会主催の自転車ロングライドイベント。2012年からスタートした「ツール・ド・千葉」では多古町がコースの一部となっており、将来的には「道の駅多古あじさい館」をサイクリング大会の拠点として活用する方向性も考えられる。なお、千葉県は、2011年よりサイクルツーリズムモデル事業としてサイクリングモデルコースの設定（中房総・南房総地域）やサイクルステーションの整備、サイクリングガイドマップの作成配布、サイクリングポートサイトの開設を行っている。

#### (グリーン・ツーリズム)

- 多古町では、田植え体験やじゃがいも・さつまいも掘り体験など「都市と農村との交流事業（豊饒のさと多古ふれあい事業実行委員会主催）」が毎年開催されているほか、多古高等学校では、地域住民と生徒が農業実習を通して交流する開放講座「地域の人々と学ぶ農業生産」に取り組んでいます。
- このような地場産業の農業を活用した交流活動を町内全域に拡大し、地域全体でさまざまな農村体験が可能なまちづくりを促進します。

#### (アート・ツーリズム)

- 多古町は、町内の田園風景などがテレビドラマやCM撮影で多数取り上げられるなど、フィルムコミッションを積極的に受け入れています。
- このような芸術家の創作意欲を刺激するような風景などに加えて、「ギャラリーなかまち」などのアート施設や寺社仏閣（日本寺や峰妙興寺など）、史跡（多古藩陣屋跡や渋谷嘉助旧宅正門など）、多古町歴史民俗資料館などをめぐり、陶芸・創作体験も行えるようなアートに関連した観光振興を行います。
- さらには、成田空港に近いという利便性を活かして、芸術関係に携わる国内外の芸術家が集えるような施設づくりやイベントを行います。

### (3) 集客・交流拠点の整備

#### 1) 道の駅の機能強化

- 多古町の観光振興の中心拠点として機能している「道の駅多古あじさい館」について、施設の機能強化や観光バス駐車場の整備、周辺への回遊を促進するためのレンタサイクルの更なる拡充等を図ります。

#### 2) 新たな集客・交流拠点の整備

- 空港東側エントランス及び総合高速バスターミナル隣接地あるいは圏央道インターチェンジ周辺、圏央道側道などを候補地として、地元産品のアンテナショップや観光情報発信機能等を有した新たな集客・交流拠点の整備を図ります。
- 圏央道沿線であれば、圏央道のサービスエリアとしての役割を想定し、圏央道の利用者が多古町を素通りすることがないように情報発信とともに利用促進を図ります。
- また、地元経済への波及効果が大きい滞在型の観光振興を目指して、地元の宿泊施設の活用に加え、空き家や公共・公益施設の空きスペースなどの活用を推進します。

#### 3) 歴史的資源の活用

- 多古町内にある歴史的資源を活用し、観光客等の誘致につなげます。
- 多古町有数の歴史的建造物である旧興新小学校を保存し、テレビや映画等のロケ地として更なる利用促進を図ることで、観光客等の誘致につなげます。

#### 4) スポーツ・レクリエーション施設の機能強化

- 町民等のスポーツ・レクリエーション活動を促進するために、町民体育館の整備や西古内地区にある野球グラウンドの拡張整備を行います。また、野球場以外の施設についても順次整備し、大会誘致などにより町内だけではなく町外からの利用促進を図ります。
- 訪日外国人旅客等の取り込みを見込んだ空港眺望公園、スポーツ野外レクリエーション施設、オートキャンプ場等の多目的施設の整備を促進します。

### (4) 観光振興体制の整備

- 空港機能強化に伴い増加が見込まれる観光客の増加に対応するため、観光協会等を設立し、観光客の誘致や町内での受入体制の拡充に努めます。

## ◆事例紹介③ 都市と農村の交流(豊饒のさと多古ふれあい事業実行委員会)

### (交流事業のきっかけ)

町の基幹産業である農業に対して、都市住民に理解を深めながら土に触れてもらうこと、また町民と都市住民との交流を図り多古町を見て・知って・体験して気軽に訪れる町として認識してもらうために事業を始めた。

### (交流事業：田植・稲刈り体験事業)

平成 17 年度より田植・稲刈り体験事業を開始。当初は、ラジオ等を通じて一般募集を行っていたが、現在は J A F や A N A 等を通じて事業を行っている。

交流事業は、田植え体験事業では、泥の中で苗を手で植えていき、稲刈り体験事業では、鎌を使って手作業で稲を収穫していき、都市住民が日常生活では体験できない農作業を行っている。

この体験事業を支えてくれるのが地元の多古米生産者である。生産者は、都市住民が怪我をしないで農作業を行えるように、優しく上手に作業のアドバイスをしながら、実演もして農業の楽しさを教えている。

作業が終わると、圃場近くの公園で水田を見ながら多古米を使ったおにぎりや多古町産の野菜をふんだんに使った料理が昼食として提供がされて、体験だけでなく食も楽しんでもらっている。



(田植え：生産者の指導により手植えを実施)



(昼食：多古米のおにぎりなどを提供)

## (交流事業：じゃがいも・さつまいも掘り体験事業)

平成 15 年度より豊饒のさと多古ふれあい事業実行委員会の構成員である「NPO法人 都市と農村交流協会」が実施している。情報誌等を通じて一般募集を行い、参加人数は徐々に増加し、現在では参加希望者が殺到し、抽選を行っているほど人気のイベントとなっている。

6月にじゃがいも掘り体験、9月にさつまいも掘り体験を行っている。

作物は、「NPO法人 都市と農村交流協会」が作付けをしているが、掘り取り作業は都市住民が手作業で行い、土の匂いを感じながら大きく育った作物を収穫している。

作業が終わると、島地区の皆さんにご協力をいただきながら、蒸かしたじゃがいもやさつまいもなどを食べていただき、収穫した作物を楽しんでもらっている。



(じゃがいも掘り体験)



(さつまいも掘り体験)

## (交流事業：市川市民まつりに参加)

都市住民に多古米、多古やまといも、多古町産農産物を知って、食べていただけるように東京に近い市川市においてPR活動を行っている。

また、徐々に認知されてきており、リピータも増え、農産物は常に完売をしている。



## (交流事業の成果について)

豊饒のさと多古ふれあい事業実行委員会としての交流事業は、都市住民が多古町に来ていただいたことや都市部においてPRを行ったことにより、交流を持てたことである。交流事業を行い、その後に何度も多古町に来ていただいている都市住民もいるとのことで、多古町を知り、来て、交流することにより町の活性化につながっている。今後も交流事業を行い、生産者・消費者だけではなく、町民全体を巻き込むような活動に取り組んでいきたい。

## 5. 移住・定住促進

### 現状と課題

成田空港の周辺地域には、成田空港の発着容量拡大に伴って、空港関連産業の立地が今後も続くものとみられます。また、成田空港内従業員数も2011年38,689人から2014年40,651人（成田空港内従業員実態調査）に増加し、また、空港機能強化後は約7万人となると見込まれています。さらに、圏央道インターチェンジの整備により東京都心や北関東へのアクセス利便性が向上し、企業立地や空港東側地域の産業・観光振興などの進展が見込まれることから、社員の移住などの空港周辺地域の住居ニーズが高まっています。こうした住居ニーズを多古町に取り込めるよう、新たな住宅地の整備や住宅情報の提供など移住・定住の促進を図ります。

### (1) 新たな空港用地・騒音区域からの移転促進

- 新たな空港用地、騒音区域からの移転代替地の確保はもとより、空港周辺地域を含めた町の活性化のためには、移住・定住・Uターンの促進をより一層図る必要があることから、空港周辺に住宅団地の整備を促進します。

### (2) 新たな住宅地の整備

#### 1) 多古台の機能強化

- 多古台では、計画的な住宅用地や商業用地等が供給され、着実に交通インフラの整備並びに商業施設等の誘致、住宅整備が進められています。また、空き家対策並びに二地域居住を推進しています。
- 今後も、多古台に続く住宅地の整備を図り、進学、就職等で多古町を離れていった世代のUターンを喚起していきます。また、三世代同居、あるいは三世代近居、という居住スタイルを推進し、多古町で育った子どもたちが帰ってくることでできるまちづくりを進めます。さらに、環境に優しいなどまちづくりのコンセプトを明確に打ち出すことで、さまざまな住宅購入ニーズに応えられる暮らしやすいまちづくりを進めます。
- また、こども園施設の利便性向上のため、駐車場の確保・整備に努めます。

#### 2) 住環境の整備

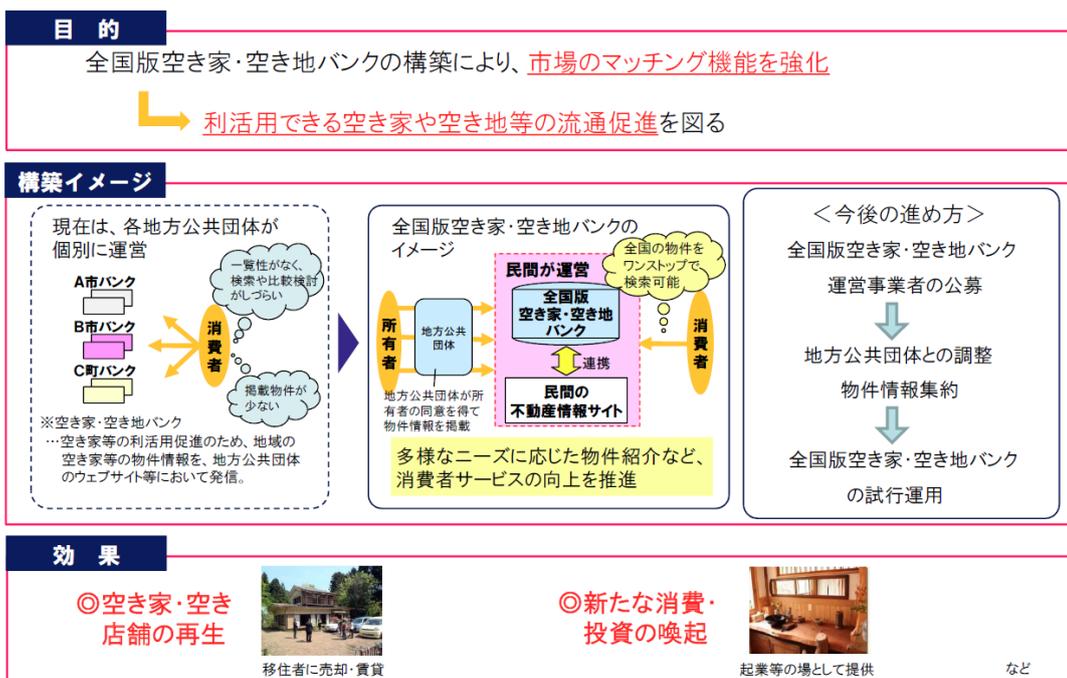
- 住民が安心して暮らし続けられる地域づくりのための基盤整備の一環となる、地域の中核的医療機関である国保多古中央病院の機能の維持並びに向上を図るため、医療機器や医療システムの更新・新設、施設設備の更新・改修を行います。
- 小中学校の空調設備や校内LAN環境などの導入管理により、教育環境の向上を図ります。また、中学校にALTを常駐配置するとともに、各小学校及びこども園には、外国人講師を派遣することで児童生徒の英語力と国際的視野の育成を図り、成田空港と連携したキャリア教育によって将来の空港関連企業への就業を促進し、定住につなげます。
- 古民家集積、文化財を展示する文化交流拠点の整備を促進します。
- 空港周辺に、空港関係の就業者増の受け皿を想定した住宅地の整備を促進します。

- 土地区画整理事業、宅地造成事業等により整備された宅地からの汚水の適切な処理を図ります。
- 第三滑走路の整備等に伴う新たな空港関連施設の水需要に対しては、積極的に成田国際空港(株) (N A A) へ多古町水道事業による水道供給を推進します。また、併せて空港周辺の地域振興として上水道施設(取水・浄水施設、配水管) 拡張の検討・整備を行います。
- 集落間や通学路における防犯灯の設置など、犯罪の防止に配慮した環境の整備を進めるとともに、広報啓発活動を推進して自主防犯意識の醸成に努め、住民が安全で安心して暮らせる地域づくりを進めます。

### (3) 住宅情報の整備(空き家バンク等)

- 多古町のなかで急速に増加している空き家を有効利用して移住・定住促進につなげるため、新たに独立する世帯や転入希望者に対して、空き家等の情報を町で一元管理し、希望者に対してタイムリーに情報提供できる仕組みとして、空き家と居住者をマッチングさせる国土交通省が検討している「全国版空き家バンク」を活用した事業を推進します。

図表 12 国土交通省が検討する「全国版空き家・空き地バンク」のスキーム



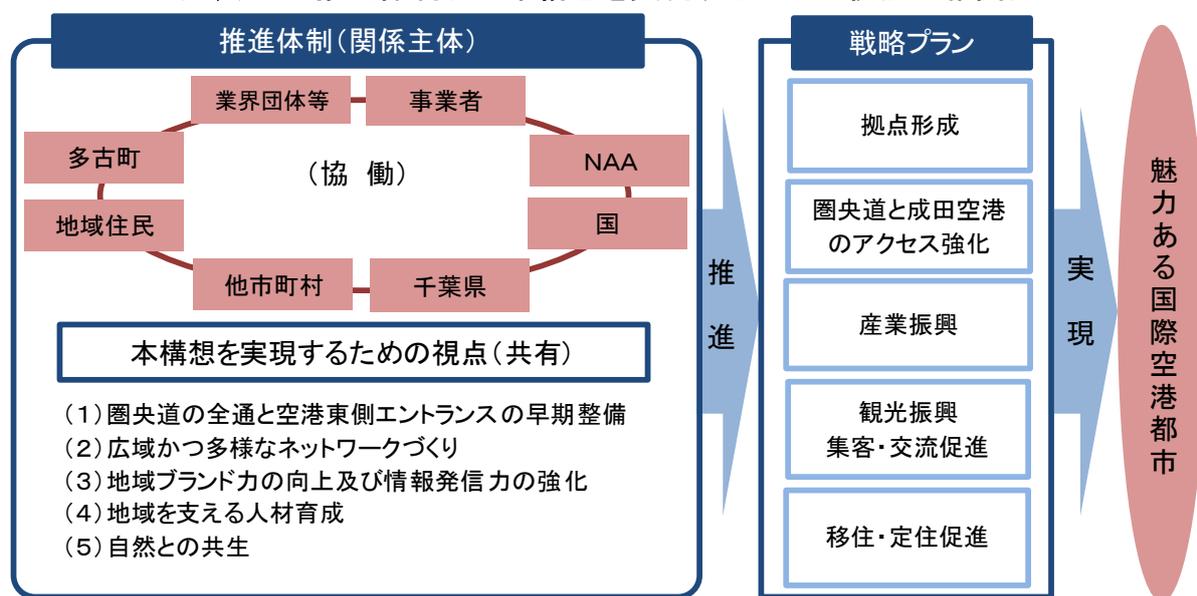
### (4) 移住・二地域居住の促進

- 仕事をリタイアした世代が、第二の人生をより充実して過ごすための移住・居住スタイルとして「二地域居住」が注目されています。
- 多古町は、東京都心から至近距離に位置しているものの、昔ながらの田園風景が広がっており、訪れる人々の心を癒すことができるなど二地域居住の高いポテンシャルを持っています。二地域居住の推進は、その延長線上に定住も考えられるなど、将来の人口増加に寄与する取り組みです。また、古民家や空き家を二地域居住用の家屋として購入するニーズも想定されることから、二地域居住者も視野に入れて住宅ニーズの把握や住宅情報の提供に努めます。

## 第4章 構想の実現に向けて

- 本構想を着実に推進し、空港東側地域が魅力ある国際空港都市となるためには、多古町をはじめ、業界団体等や事業者、成田国際空港(株) (NAA)、地域住民など地域の関係主体とともに千葉県や他市町村、国が本構想を実現するための視点を共有しながら、それぞれが応分の役割を担って各種事業に取り組む「協働」体制を確立することが必要不可欠です(図表13)。
- 多古町は、本構想策定のベースである成田空港の発着容量拡大(50万回)及び圏央道の整備という日本有数の交通インフラを最大限活用するため、空港東側地域をとりまく関係主体に積極的に働きかけ、広域的な連携を深めながら本構想を推進します。

図表 13 推進体制及び本構想を実現するための視点の相関図



### 1. 本構想を実現するための視点

#### (1) 圏央道の開通と成田空港東側エントランスの整備

- 本構想の戦略プランを推進する際の前提条件として、「圏央道(大栄 JCT～松尾横芝 IC間)の開通」と圏央道と成田空港のアクセス向上に向けた「空港東側エントランスの整備」は欠かすことができません。
- 多古町は、空港東側エントランスの整備を促進するにあたり、空港東側地域に空港機能を補完するインフラの設置も検討していきます。さらに、空港周辺市町をはじめとした本構想を推進する関係主体とともに、これらの中枢的なインフラ整備をできるだけ早く実現できるよう力をあわせて取り組めます。

#### (2) 広域かつ多様なネットワークづくり

- 成田空港の発着容量拡大及び圏央道の整備で高まる空港東側地域のポテンシャルを多古町の活性化につなげていくためには、他市町村と連携を図るなか、空港東側地域をとりまくさまざまな拠点を結ぶ広域かつ多様なネットワークを形成し、より大きな視点で戦略プランに取り組むこと

が必要です。

- 多古町は、空港東側地域のエントランスとして県内外の各拠点を結ぶ役割を積極的に担い、その相乗効果による地域活性化を目指します。

### (3) 地域ブランド力の向上及び情報発信力の強化

- 本格的な人口減少社会の到来や国内市場の成熟化、産業のグローバル化などにより、国内マーケットの頭打ち感が次第に強まっており、今後はあらゆる分野で地域間競争が激しくなることが見込まれます。
- 多古町には、美しい自然や新鮮な農作物、生活の豊かさなど多くの宝物に恵まれています。こうした多古町のイメージと結びつくような特産品・商品や施設・景勝地（まちの花「あじさい」など）の魅力をさらに高め、他地域と差別化を図れるよう地域ブランド力の向上に努めます。また、多古町を訪れた観光客に対しては、「道の駅多古あじさい館」などを拠点に多古町の各種物産の情報発信を図るほか、フィルムコミッションなども含めてインターネットやテレビ、ラジオ、新聞などのマスメディアや各種パンフレット\*<sup>注1</sup>に加え、SNS\*<sup>注2</sup>なども活用して多古町の魅力を発信し、企業立地や観光振興、移住・定住の促進などにつなげるとともに、他市町村と連携を図りながら、地域全体の所得向上を目指します。

### (4) 地域を支える人材育成「多古の子 町の子 みんなの子」

- 空港東側地域が地域の魅力を高めて国際空港都市となるためには、町内外の関係主体と連携し、戦略プランを積極的に推進する町内の人材支援・育成が欠かせません。そのためには、多古町商工会や多古町農業協同組合などの業界団体との連携により、戦略プランの推進と人材育成の両立を図りながら、NPO・ボランティア団体などの育成・支援などに取り組み、町内一丸となって計画を推進していくことが必要不可欠です。
- また、実現まで中長期的な期間を要する分野については、その理念を次世代につなげていくことも重要な視点となります。
- 多古町には「多古の子 町の子 みんなの子」というスローガンがありますが、この理念を具現化した「コミュニティスクール（学校運営協議会制度）」などを活用して長期的な視点で地域を支える人材育成に取り組みます。

### (5) 自然との共生

- 多古町は、都心から約70kmに位置しながら、緑豊かな里山の風景が広がり、多古米や大和芋など大地の恵みにあふれています。こうした美しい自然や新鮮な農作物は多古町民の誇りであるとともに郷土の大切な資産です。
- 多古町は、これまでも工業団地における排水基準を他の自治体より厳しく設定するなど、自然との共生を念頭においた事業を進めてきました。本構想においても、そのスタンスは全く変わることがなく、自然への配慮を前面に押し出しながら、戦略プランの実現に取り組みます。

(注1)既存のパンフレット等を活用して日本語と英語を併記し、日本語を更新するときに英語も更新する。

(注2)ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのこと。代表的なSNSとして、「Facebook(フェイスブック)」や「mixi(ミクシイ)」などがある。

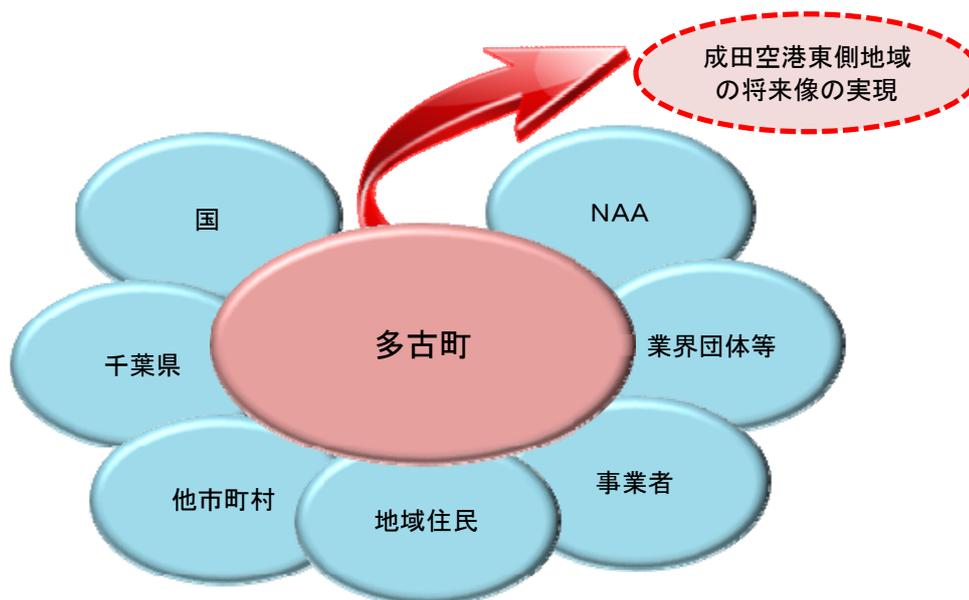
## 2. 推進体制

### (1) 関係主体の役割

#### 1) 多古町

- 多古町は、魅力ある国際空港都市の実現に向けて、各種戦略プランを推進します。また、社会情勢の変化をタイムリーにとらえ、必要に応じて事業の見直しも行います。
- 戦略プランのもと各種施策について、多古町が主体的に推進します。また、国や県の施策等を地域の関係主体に適宜提供するほか、町の融資制度などを通して、事業者と金融機関を仲介する支援も行います。

図表 14 関係主体の連携のイメージ図



#### 2) 業界団体等

- 本構想の戦略プランにおいて、企業誘致の促進など産業振興を進めていくためには、多古町商工会などの経済団体が持っている事業者への各種支援機能を有効的に活用するとともに、各種業界団体が各業界の現状・課題をふまえたうえでの確かな支援を行うことが求められています。多古町は、各業界団体が事業者と地域住民などのパイプ役として機能できるように支援します。

#### 3) 事業者

- 地域経済の主役である事業者のリーダーシップや主体的な取り組みは、戦略プランを中長期的な視点に基づいて進めるために中核となる原動力であり、事業者の積極的な関与が期待されています。多古町は、町内の既存事業者及び新規立地事業者の経営活動がスムーズに行えるよう各種情報提供や財政支援などのバックアップを行うなど経営環境の良化に努めます。

#### 4) 成田国際空港(株) (N A A)

- 成田国際空港(株) (N A A) は、新たな第3滑走路整備に関する地権者の移転対策や道路等の機能補償・代替道路整備等を、千葉県、多古町と連携しながら、主体的に進めることが期待されています。
- また、成田空港と周辺地域の共生・共栄の一助として、本戦略プランにおける「空港東側エントランスの整備」、「成田空港インターチェンジ(構想)」や「空港眺望公園の整備」を、千葉県、多古町と連携しながら、主体的に進めることが期待されています。  
多古町は、これらの成田空港の取り組み効果が地域活性化に活かされるよう圏央道及び空港東側エントランスと空港東側地域を結ぶ町道の整備などを主体的に推進します。

#### 5) 地域住民 (N P O・ボランティア含む)

- 空港東側地域の持続的な発展に向けて、地元住民は、地産地消など消費を通じた地元事業者の育成・支援に取り組むとともに、N P Oやボランティアなどサービスの供給者として地域社会の発展に貢献することが求められています。また、「多古の子 町の子 みんなの子」のスローガンのもとで地域の人材育成に努めるとともに、多古町を訪れた観光・ビジネス客に対しては温かいホスピタリティで接することが期待されています。  
多古町は、これらの地域住民の取り組みを後押しするため、総合計画及び総合戦略に基づいて地域住民が暮らしやすいまちづくりを進めます。

#### 6) 他市町村

- 空港周辺地域が国際空港都市となり持続的な発展を続けていくために、空港周辺市町はともに連携し、各種取り組みの相乗効果が最大限になるよう取り組みます。

#### 7) 千葉県

- 本構想策定のベースである成田空港が安定した航空需要に対応し、空港東側地域の持続的な発展を遂げられるよう、県は関係市町村、国及び成田国際空港(株)とともに空港機能を活用した地域振興を図ります。さらに、県は、圏央道整備に関する地域への情報提供及びできるだけ早い整備を促進します。
- また、平成30年3月13日に国(国土交通省航空局)、千葉県、成田空港周辺9市町及び成田国際空港(株)の四者(以下「四者」という。)において、成田空港周辺地域の地域づくりに関する基本的な方向性や内容をまとめた「基本プラン」を策定しました。
- 今後は、四者でこの「基本プラン」に基づいて、具体的な施策をまとめた(仮称)「実施プラン」を策定し、四者で連携協力しながら、実施に向けて取り組みます。

#### 8) 国

- 国は、成田空港が安定的な運航を維持できるよう支援するとともに、圏央道の整備を主体的に進めます。